西南学院大学　国際文化論集　第三十七巻　第二号　二五九－四一八頁　二〇二三年三月

天保九（一八三八）年　幕府巡見使への対馬藩対応（四）

―『御巡検使記録　御勘定奉行所』―

森　弘子
宮崎　克則

前号『国際文化論集』第三十七巻一号の続き。本号で終わり。

凡例

- 旧字は常用漢字にした。但し、固有名詞は残した。
- 「ゟ」は「ヨリ」、「ホ」は「等」、「而」は「て」、「江」は「え」とした。
- 変体仮名は平仮名に改めた。
- 欠字・平出は省略した。
- 伺いに対する返答として「付紙」があり、「付紙」が頭注に記されてる場合は＜頭注＞と記した。また、朱書きの場合は＜朱書き＞と記し、その範囲を「　」で示した。

- 判読できなかった文字は□とした。
- 読点「、」、並列点「・」は筆者による。
- 傍注の（　）は筆者による注。

人馬方

荷物揚ケ

人馬方

〃人馬方詰所之儀、御米蔵浜弐番・参番御蔵ニ被仰付置候処、夏季蔵詰難儀ニ可有之候間、御着迄波戸御番所へ相詰メ、御着時分ニ相成、右蔵え移り御出帆後、又々浜御番所ニて取調候様被仰付

参番御蔵之内を仕切、上使御三方様御荷物を入候事

御駕籠舁夫　一、郷夫拾五人

作一、府内夫拾五人

〆参拾人

右、上使御着之日より人馬方へ相渡ス

但、田舎拾五人は草使家へ召置、御作事方ヨリ之拾五人ハ銘々居所ニ罷有、御着之相図太鼓を打候ハヽ、早速人馬方へ可罷出候事

〃前広夜々御駕籠、組之者より致指南候事、御着時分ニ相成候得ハ、人馬方へ為稽古、昼も罷出候事

〃右参拾人御用掛与頭田嶋所左衛門、御勘定奉行、人馬下知役其外筋々之役々、御使者屋ニて立会見分、人馬方へ被相請込候事

〃上使御着之節、御荷物揚ケ夫之儀、頭漕六隻并漕船弐拾四艘之水夫召仕候事、御供夫之儀は、以前ヨリ御作事方ヨリ差出候儀とハ相見候得共、今程御手人無之候ニ付、此節は何れも御船

奉行所請持ニて差出候事

〃御出帆之節も同様之事

〃御船揚且御乗船之節、御供夫参拾六人ツヽ之手当は、頭漕六隻之人夫召仕候事

〃人馬方出張之間、小使弐人ツヽ、相渡候事

〃駄駄駕籠七挺、壱挺六人掛り、御用人衆乗り用

右駕籠舁夫四拾弐人之着用箕、御作事方ニて出来、人馬方へ相渡

一、御召駕籠参挺　ふとん敷、御座、雨覆、桐油ともニ

一、山御駕籠参挺　右同断

一、あんた七挺　右同断

一、出駕篭四拾弐挺　右同断

一、紺無地単物弐百参拾程　内弐百弐拾在之

一、帯弐百参拾　内弐百弐拾在之

御人数并御行列之多少ニ依、増減有之候事

一、下帯参拾筋　御駕籠夫用

一、細引弐百五拾六筋　百参筋と申来

一、七嶋百弐拾七枚　六拾枚と申来

御荷物之多少ニ依増減有之候事

駕籠舁

脇差

一、刀九柄　六柄と申来

一、脇差百弐拾柄

一、柿長手拭参拾筋

脚半

一、脚半参拾五足

一、荷印小旗百弐拾ウ　三色ニ染　紺・浅黄・柿

一、大之分　同九ツ　三色ニ染

一、財袋六ツ

一、絹単羽織六ツ　木綿ニして

一、小油紙参拾枚　入用吟味可相渡事

一、桐油弐百弐拾枚　百弐拾五枚と申来

一、渋紙参拾枚程　〈朱書き〉「桐油之儀品位不宜、雨通候て不都合之儀在之、重而ハ上品注文在之事」

一、歩行持棒拾五本

一、筵百参拾五枚程　百弐拾枚と申来

一、矢立拾八

合羽

一、青合羽拾八

一、赤合羽百六拾弐　御行列人数丈

わらじ

御作事用意

一、箕之四拾弐　御用人衆駕籠夫用

一、菅笠参百四拾壱枚　弐百弐拾七枚と申来

一、息杖百拾六本　九拾四本と申来

一、竹馬九荷

一、丸挑灯七張　壱張と申来

内六張高挑灯、引両御紋有之段、人馬方ヨリ申来ル

一、大用燭七ツ

一、水越参ツ

一、草り四百四拾足　四百足と申来

一、わらじ千参百足程　八百足と申来

一、箱挑灯拾弐張

一、鉄錠参ツ

一、茶水桶参荷　当節相止

一、貝木参本

一、弐拾匁掛蝋燭弐百弐拾四挺

一、竹挟箱壱荷

一、木綿引廻参通
一、毛氈参枚
一、並玉よま参玉
一、白布六尺
一、荷札四拾枚
一、木綿幕壱張
一、下ケ緒百弐拾柄分
一、畳原百筋
一、摺小縄五抱
一、地縄四拾俵分
一、釣台六ツ
一、引廻御雪隠参軒
一、大道寸拾弐筋
一、木綿壱丈
一、挑灯籠壱荷
一、木燈台弐ツ

木綿幕

木燈台

笠之いたゝき付用

但、先規相渡候儀相見へ不申候得共、入用之段申来候間、相渡ス

荷馬印用

御役所用

矢立

〃組中貸渡用矢立拾弐本、先々御用意ニ相成来候得共、此節は壱ツ九銭壱匁ツ、損料借ニ申、組損料相渡、御用意ニ不相成候事

〃手代役中用は、自分用意之儀申談し、自分ニて用意ニ相成相済候事

駕籠舁

〃上使御駕籠舁夫参拾人

内、拾五人

御作事方ニて召抱置、稽古罷有候節壱人銀参匁、田舎御付廻壱日銀弐拾壱匁ツ、被成下候、申組ニして召抱ニ相成ル

但、此節は、御下着之様子御火急ニ相成候付、夜稽古為致候由ニて、夜賃御渡被下方人馬方ヨリ申出ニ相成、壱人前壱夜銀壱匁五分ツ、被成下候事

残拾五人　御郡夫ヨリ相勤

郡夫

〃御郡夫拾五人、府内逗留中ハ壱日壱人銀壱匁五分、田舎御往還之間は、壱日壱人白米壱升銀壱匁宛被成下

府内夫

〃府内夫拾五人は、当時番手ヨリ差出来候得共、此節は人少ニ付、御駕籠舁夫として被召抱候付、右之賃銀被成下候得共、番手ヨリ罷出候節は、田舎往還之間被下丁銭参百文、飯米白米壱升ツ、被成下

人馬賃

〃御巡見使田舎御巡行之節、人馬賃銭馬指組中より取立候分、帳面ニ相仕立差出候付、吟味之上諸方上納帳ニ相請込候事、銀高左之通

一、丁銭六貫弐百弐拾八文　一番様
一、同、六貫七百七拾九文　二番様
一、同、六貫五百七拾八文　三番様
〆丁銀　拾九貫五百八拾五文
銀ニして参百弐拾六匁四分壱厘六毛
諸方上納帳ニ相請込

久田村

久田村仮番所詰
御徒士六人
弐人中下壱人
右同所下夕番
組中両人
郷足軽壱人

上旅籠銀壱日壱人、銀壱匁五分ツ、
下飯米同　白米四合五勺ツ、

郷足軽

組之者、壱人壱人白米四合五勺
壱日壱人味噌参拾匁ツ、
久田村売物方ヨリ相渡ス

久田村売物方へ被相付候

久田村仮番所

御徒士目付
早田佐平衛
上下弐人
同所売物役
六拾人
岡村重兵衛
鍵屋孫治
弐人中下壱人

上旅籠銀壱匁五分
下壱日白米四合五勺

上旅籠銀壱匁五分
下壱人同壱匁弐分

作〃夫之者壱人　仮番所小使
薪壱疋　代銀七匁
燈草壱束　代丁銭拾五人（ママ）
但し、郷役人ヨリ売渡候時、売物方へ不相拘候事
右久田村ニて、上使方船々え売渡用薪・燈草、御買入之入札直段ニて売渡候事

〃箱挑灯壱張
〃仮番所六畳切組　長六畳として
〃久田村売物方へ用意之品々は、田舎売物方へ細ニ記ス
〃久田村え相備居候燈草・薪之儀、御船々より所望有之節々、村役人ヨリ売渡候先規ニて、

小使

燈草・薪

長久郎

直段も伐出し候節之落札直段ニて売渡候先規之段、御郡奉行所より申来ル

久田村長九郎方へ用意之品々、左之通

一、大手洗三ツ
　　内弐ツ　上之分
　　内壱ツ　次之分
一、批杓大小弐本
一、水据桶壱ツ
一、手水批杓壱本
一、大釜壱ツ
一、水田子壱荷
一、手水桶壱ツ
一、手水手洗弐ツ
　　内壱ツ　上之分
　　内壱ツ　次之分

〃久田村売物方之儀、御船々千人を越し候居込ニ相成、両人ニて難行届候付、下タ役壱人宛賃銀壱日九銭弐匁宛として、下村之日ヨリ御逗留中相渡候事

売物方

雪隠・風呂

一、長九郎宅御借上ニ相成、普請所上ヨリ御取繕被成、雪隠・風呂場取設、畳替之儀、上段六畳、外ニ座八畳六匁表ニして、其余次より寄付迄を四匁表ニて、床は御借上にして上ヨリ表替被成候事

一、風呂屋壱軒御借上ニ相成、座次ともニ四匁表ニして、風呂場取設候事

〃参人程宛入り候風呂壱ツ、釜ともニ相備候事

〃座廻り格別損し之所、松葉紙ニて取り繕、障子半紙ニて相済候事

〃売物屋壱軒御借上、格別見苦鋪無之丈ケ取繕相済候事

肥前様

〃肥前様御船乗組之者、両人令病死候ニ付、久田村延命寺え揚ケ置候様御達

〃上使御上船後、久田村へ御廻り被成候節、若し御揚陸有之候時之為、御宿をも御設之、同所浜之儀は、干出し之場所ニて、小隼之付候丈ケ之杭を建、縄繕ニして、凡弐拾間程も沖手迄出来、背板等を以結付、長九郎宅より東手ニ寄、御作事方ヨリ出来候事

〃御船々売渡用薪之儀、売余之分、追て下知役ヨリ願ニより、久田村中へ壱疋ニ付銀ニして御売渡被下

風呂屋

〃風呂屋之儀、先規之通壱ヶ所御取設ニ相成居候処、上下無差別大風呂壱ツ相設置候処、振合不足、以来は上下風呂弐ツ御用意ニ相成度事

〃上使一行乗船売用薪百五拾疋、燈草千五百抱、用意ニ相成居候処、薪之儀六拾参疋五合売残ニ相成、然処久田村中より売渡方、同村下知役長九郎願ニ依、壱疋ニ付元直段銀七匁ニて伐

出シ居候を、壱疋銀六匁参分ツヽニして御売渡し被下候事

右之薪・燈草払相立候差引左之通

一、銀壱貫四百匁

内壱貫五拾匁　壱疋七匁ツヽ、

薪　内参百五拾匁　壱束丁銭拾五文ツヽ、

燈草　燈草千四百束代

右之通、久田中落札前之分、賄方ニて払相立候事

内九百五拾五匁五分

内六百五匁五分

薪八拾六疋五合　船々え売渡候代銀、如是

同参百五拾匁

燈草千四百束　右同断

同四百匁五厘

但し、売残薪六拾参匹五合、久田村中へ壱疋六匁参分ツヽニして御売渡被下候代

如是

残銀四拾四匁四分五厘

田舎御宿

此分残薪六拾参疋五合、壱疋六匁参分ニして御売払被下候付、壱疋ニ付銀七分宛之御損銀ニ相当候事

田舎御宿々

一、田舎御泊り村壱ヶ村ニ御付部屋参軒ツ、　御郡ニて出来

賄〃薄縁弐拾枚　御宿壱軒ニ壱ヶ所ツ、

〃筵弐拾枚　壱ヶ所ニ如是

郷番所参軒宛

〈頭注〉「郷番所之儀、伺ニヨリ相止候事、委細伺之細ニ有之」

賄〃薄縁参拾枚　壱所ニ如是

〃筵参枚

右筵・薄縁、豊村・深山村・琴村・佐賀村・大山村、此五ヶ村え差下、其余は右之内より為替ニ相成候事

賄〃幕九張　郷番所相止候付、此品々不差下候事

〃細引丸筋　火用燭共

〃丸挑灯九張

作〃鳶口拾八本

〃張手甫四拾五

右郷番所用三（ママ）御泊り分、此分ニて段々為替ニ相成、御郡より支配

雑巾

賄〃雑巾五拾四

御泊り村七ヶ村御昼休ミ、鶏知・佐須奈共ニ九ヶ村、一ヶ村六ツ宛

右兼て御郡奉行所え差下置候事

炭

賄〃炭は御宿壱軒ニ弐俵ツヽ、御下宿壱軒ニ壱俵ツヽ之積りニして、拾弐表程ツヽ、一御泊り

ニ用意之事

〃寄夫飯米村々え相備候分、御郡奉行所之細ニ記ス

昼休宿

鶏知・佐須奈、両所御昼休御宿々并仮番所用之品々

賄一、木綿幕六張　引両計

一、薄縁十八枚

一、筵十八枚

一、鳶口拾弐本

一、張手甫参拾ウ

一、火用燭六ツ　鶏知村之分計差下ス

一、丸挑灯六張

一、細引六筋　　右同断
一、御刀掛六ツ　　壱柄掛
一、御手水桶六ツ
一、御手拭掛六ツ
一、晒御手拭六ツ
一、小批杓六本

右之通兼て差下置

一、六枚折屏風四双半　　御本陣は新ニ半双ツ、
一、弐枚折、同四双半

右田舎御宿々用三為替ニして差下ス

襖

〃田舎御宿々襖・張壁之儀、御上宿座次且納戸は、御用人住居ニ相成候付、紋紙張り、木引手ニして、其之外勝手廻りは松葉紙ニして、下宿はいつれも松葉紙張之事

夜具

〃田舎御宿々用絹夜具之儀、上使用は素より御用人以下備分参拾六人分共、府内より被差下、尤夜具廻し支配人兼て被仰付置候付、其人え差配方之儀申上、組中等被相付御泊り村々毎ニ差廻し、無御用滞相済候事

〃右同断、木綿夜具御備ニ相成候分ハ、不残持合之夜具御借上ニして、御備相立候内、上之六郷は、洗濯等自分ニて取計直御用立候用御請申上差出候処、与良郷ニて八拾弐通御借上之内、

畳

畳表

拾七通は其侭御用立候得共、残六拾五通洗濯不取計候て難相用候処、何れも困窮ニて自分洗濯不相届、洗濯賃夜着壱ツ銀参匁、蒲団一ツ壱匁八分ニ申組、依之壱通ニ付銀四匁八分可相渡段取極候段、其節夜具・器物類御借上為見分被差下置候御郡手代小宮弥内、御賄掛川本茂十郎ヨリ申出候付、則銀参百拾弐匁御郡奉行所相渡候事

〃田舎御宿々畳之儀、床コは御借上ニして、座次・寄付・納戸等は六匁表・四匁表を以、上ヨリ表替被成、御入用後、表替之侭御貸上之主え御返し被下候付、差手間は自分ヨリ差出候様申談候事、尤表縁糸等、御郡奉行所へ兼て差下置、便有之節村々え差下方及談候事

〃御上宿・御下宿台所畳之儀、御借上器物吟味として被差下候川本茂十郎より申談、御借上取計、表替不致相済候事

畳表・縁糸共差下候数左之通

一、六匁表　拾八畳　大山村
一、四匁表　百弐拾四畳
一、六匁同　拾八畳　佐賀村
一、四匁同　百四拾五畳半
一、六匁同　弐拾畳　琴村
一、四匁同　百拾四畳

六匁表
四匁表

一、六匁同　拾八畳　豊村
一、四匁同　百六拾壱畳
一、六匁同　六畳　鰐浦村
一、四匁同　拾四畳
一、六匁同　拾八畳　佐護村
一、四匁同　百五拾八畳半
一、六匁同　弐拾畳　佐須奈村
一、四匁同　九拾八畳
一、六匁同　弐拾畳　仁田村
一、四匁同　百七拾弐畳半
一、六匁表　拾八畳　仁位村
一、四匁同　百五拾参畳半
一、六匁同　拾八畳　鶏知村
一、四匁同　百拾参畳
〆六匁表　百七拾四畳
四匁表　千弐百五拾五畳

御賄掛

御賄掛持下品々

一、御賄掛六人并下代六人、参組ニ分り御泊り村々相勤、其外此節御下村掛ケ鶏知村ニて御昼可被仕廻時宜ニも押移候も難計由ニて、是迄御例外なから、御賄壱人并下代・下モ男・竈之者をも被差下候、名前左之通

壱番　豊村　御泊　川本茂十郎
大山村　波多野新左衛門
仁田村　御斤定蔵下代
入右衛門
下代之代り
下モ男
傳治

弐番　佐須奈　御昼　井常右衛門
佐賀村　御泊　大宮吉左衛門
仁位村　御泊　御賄方下代
荘七
下代手代り下モ男

御昼

持下り品

御朱印台

琴村　御泊　原田宇右衛門　喜作

参番　深山村　田口甚七郎

御帰り　御斤定蔵下代

鶏知村　御昼　久兵衛

下代手代り下モ男

忠吉

御下村掛ケ鶏知村御昼御備

高山範之介、御賄方下代瀧川吉兵衛、升取市蔵、下モ男壱人、竈之者参人

持下り品々三組分

一、御刀掛九ツ　壱柄掛

一、御朱印台九ツ

一、御手拭掛拾八　御手拭挟共二

一、湯板九枚

下駄

一、庭下駄弐拾壱足　下御泊参足ツ、
一、燈台参拾六本

寛政年は行燈ニて相済、此節伺ニより田舎は御手当ニ不及段被仰付

多葉粉

一、多葉粉九ツ　上之分
一、手燭拾八本
一、晒布手掛拾八
一、小批杓拾八本
一、銅水次九ツ　寛政年は壱ヶ処湯戸ニて済
一、棗風呂拾弐
一、小腹茶碗参拾九
一、土ひん拾弐
一、酒越九ツ
一、薄茶々碗参拾九

煙器

一、煙器六拾本
一、水越九ツ
一、塗炭取九ツ
一、紗綾のれん九張　寛政年無之、此節相止ム

銅鍋

料紙箱

一、丸挑灯九張　よま九筋添、引両計
一、唐金火鉢九ツ　火箸九膳添
一、御椀掛九ツ
一、毛氈六枚　寛政年不相用
一、御飯次九ツ
一、銅鍋九組　三ツ入子ニして
一、白木片木弐拾壱枚　下泊り参枚ツヽ、御雑紙乗セ用
一、小杉紙参束　御雑紙用
一、御庭草り弐拾壱足　一ト泊り参足ツ、
一、梠(棚)箒九本
一、茶たい(台)九ツ
一、料紙箱九ツ　此節伺ニヨリ田舎差下ニ不及段被仰付
〃金銘筆弐本
〃奉書紙　壱帖ツヽ、添
〃美濃紙
〃奉書判切壱巻
右料紙箱ニ添

硯箱

一、硯箱九ツ

金銘筆弐本ツ、添

墨宝壱丁

右上之分

但し、硯箱は上之分持下可申、筆墨紙は見計持下り可申事

一、布手拭拾八

一、白木綿湯衣拾八

一、鉄真鍋拾弐

一、□同五ツ

一、煙器参拾六本

右次之分

一、煙器六拾本

一、酒越九ツ

一、布巾拾八

一、大批（ママ）杓参本

一、真板（ママ）九面

一、五徳拾八

五徳

庖丁

一、白木綿手拭拾八
一、縁蓙(ママ)九枚　　弐間続一重ニして
一、小批(ママ)杓九本
一、出羽庖丁
一、丸挑灯拾八張　　引両計
一、箱挑灯拾八張　　引両計
一、貝木拾八本
一、大薬鑵(缶)　九ツ

白米

一、参拾匁掛蝋燭百八拾挺
一、弐拾匁掛同九拾挺
一、上々白米六斗
一、上白米四石五斗
一、中白米四石五斗

上酒

一、上酒参挺
一、御膳味噌弐拾弐貫参百匁
　　内七貫参百匁　　大山・豊・仁田一ト組
　　同七貫参百匁　　琴・深山・鶏知一ト組

同七貫七百匁　佐賀・仁位・佐須奈一ト組

一、次味噌参拾壱貫五百匁

内九貫匁　大山・豊・仁田壱組

同九貫匁　琴・深山・鶏知壱組

同拾参貫五百匁　佐賀・佐須奈・仁位壱組

赤味噌

一、赤味噌七拾貫匁

内弐拾貫匁　大山・豊・仁田壱組

同弐拾貫匁　琴・深山・鶏知壱組

同参拾貫匁　佐賀・仁位・佐須奈壱組

酢

一、醤油参斗

一、酢六升

一、白箸拾五袋

一、塩参俵

一、砂糖参斤

一、付木参拾把

一、燈心九拾把

鰹節

一、鰹節九本

上茶

一、種油壱斗五升
一、胡麻油壱升五合
一、上茶参百匁
一、茶八百四拾匁
一、大根香物参百本

扇

一、扇六拾本
一、茶袋九ツ
一、摺木九本
一、塗杓子九本
一、白木杓子九本
一、金杓九本
一、貝杓参拾本
一、磻（ママ）すゝき六拾う
一、差札拾五枚

文箱

一、文箱拾五
内壱通入六ツ
同弐通入六ツ

同五通入参ツ

一、硯蓋五組　拾枚ニして
一、玉よま参玉
一、杜丹（ママ）六拾う
一、小油紙九枚
一、差（美カ）濃紙六帖
一、中結紙九帖
一、白半紙参束　半紙
一、脚形墨六挺
一、筆参拾本　銀銘・嶋銘
一、大油紙九枚　油紙
一、白布参疋
一、縁取呉座九枚　壱間物さらさ縁ニして
一、折釘拾五本
一、五寸釘六拾本
一、荒板　弐寸参寸　釘九百本　壱組百本宛
一、さし枕参百四拾五

炭

一、刻多葉粉六包
一、雑巾九ッ
一、飯鍋九ッ
一、炭参拾貫匁
一、木綿袋拾弐
一、魚油参斗
一、千切参丁

焼酒

一、焼酒六升
一、ミそ越参ッ
一、桐油苫参拾枚
一、黒半紙壱束五帖
一、白木綿参疋

梅干

一、梅干
一、干瓢
一、干鮎

見計

いりこ

一、いりこ
一、ゆば

胡麻

人参

金

銀

田舎売物方

一、胡麻　〃

右先格長持入ニして持下候得共、御郡奉行役請ニして、長持は見合ニして、御供賄明荷箱入ニして差下、米は袋叺ニ入差下候事

一、単参拾弐匁

〃人参之儀は、壱匁袋ニして百田紙ニて出来、代銀書付、御目付印判を押候手数也

一、上々人参弐両目

〃為用心御勘定手代内山繁左衛門為下り候事

一、金拾九両

内拾両　判金ニして

同九両　弐朱金ニして

一、銀参百匁

〃寛政年は三組御賄掛へ拾切程ツ、貸渡し差下有之、若御勘定手代御先へ出立いたし候時は、御用相滞り候付、当節も貸渡可申候事

田舎売物方　久田村共ニ

一、上々白米壱石六斗　壱ヶ村弐斗ツ、

一、上白米拾弐石　同壱石五斗ツ、

鰹節
白砂糖
生酒

一、中白米拾四石　同弐石ツ、
付、飯用久田村は無之
一、鰹節八連　同壱連ツ、
一、白砂糖拾六斤　同弐斤ツ、
一、御膳味噌拾四貫匁　同弐貫匁ツ、
久田村は無之
一、切飯形　壱ヶ村久田村共
一、次味噌五拾六貫匁　壱ヶ村七貫匁ツ、
一、赤味噌四拾弐貫匁　壱ヶ村六貫匁ツ、
久田村は無之
一、昆布百六拾本　壱ヶ村弐拾本ツ、
一、大豆八斗　豆腐用　壱ヶ村壱斗ツ、
一、氷こんにやく八百ケ　壱ヶ村百ケツ、
一、椎茸四斗八升　壱ヶ村六升ツ、
一、生酒八斗　壱ヶ村壱斗ツ、
一、干大根八百本　壱ヶ村百本ツ、
一、白箸四拾袋　壱ヶ村五袋ツ、

魚油

一、塩弐拾四俵　　壱ヶ村参俵ツ、
一、種油四斗　　壱ヶ村五升ツ、
一、魚油弐斗壱升　　壱ヶ村参升ツ、
　　但、此方役々泊りニ相渡候分不足之節、御賄方持下り参斗之内ヨリ相請取相渡候ニして、尤寛政年は相見不申候得共郷方ニて用意難相成候付、役談之訳ニヨリ如是

うとん

一、油次
一、楊枝弐拾四袋　　壱ヶ村参袋ツ、
一、醤油八斗　　壱ヶ村壱斗ツ、
一、上茶八斤　　壱ヶ村壱斤ツ、
一、次茶八斤　　壱ヶ村壱斤ツ、
一、酢四斗　　壱ヶ村五升ツ、
一、餅米八斗　　壱ヶ村壱斗ツ、
一、うとん之粉四斗
　　此品うとんやえ申付、其身持下ニいたし候事

葛

一、焼塩弐拾四壷　　壱ヶ村三壷ツ、
一、葛弐斗四升
一、付木八拾把　　壱ヶ村拾把ツ、

唐からし

干鱈

干鰯

炭

一、燈心（芯）八拾把
一、唐からし四升　壱ヶ村五合ツ、
一、胡枡（ママ）弐百四拾匁　壱ヶ村参拾匁ツ、
一、大根香物八百本　壱ヶ村百本ツ、
一、干鱈八拾枚　壱ヶ村拾枚ツ、
一、塩鰤八喉　壱ヶ村壱喉ツ、
一、干鰯弐千四百ヶ　あじにても宜　壱ヶ村参百ツ、
一、瓜香物四拾八盆　壱ヶ村六盆ツ、
一、菅笠百六拾枚　壱ヶ村弐拾枚ツ、

外ニいただきは余分ニして

一、あふるこ弐拾四枚　壱ヶ村参枚ツ、

御料理用

一、木杓子弐拾四本　壱ヶ村参本ツ、
一、塗杓子四拾八本　壱ヶ村六本ツ、
一、炭四拾貫匁　壱ヶ村五貫匁ツ、
一、尾早岐（おばやけ）
一、百田紙八束　壱ヶ村壱束ツ、

わらし
一、草り弐百四拾足　壱ヶ村参拾足ツ、
一、わらし千弐百足　壱ヶ村百五拾足ツ、

煙器
一、煙器八拾本　壱ヶ村弐拾本ツ、
一、脚形墨四拾挺　壱ヶ村五丁（ママ）ツ、
一、縄四拾束　壱ヶ村五束ツ、
一、枡弐拾四　壱ヶ村参ツツ、
一、筵百六拾枚　壱ヶ村弐拾枚ツ、
一、渋紙八拾枚　壱ヶ村拾枚ツ、
一、細引四拾筋　壱ヶ村五筋ツ、
一、丸挑灯八張　壱ヶ村壱張ツ、
一、魚尺八枚　壱ヶ村壱枚ツ、
一、結上戸（ママ）弐拾四　壱ヶ村参ツツ、
一、割（ママ）多葉粉壱貫六百匁　壱ヶ村弐百匁ツ、

元結
一、元結百六拾把　壱ヶ村弐拾把
一、弐拾匁掛蝋燭百六拾挺　壱ヶ村弐拾挺ツ、

白半紙
一、嶋銘筆八拾本　壱ヶ村拾本ツ、
一、白半紙四拾束　壱ヶ村五束ツ、

一、鬢付弐斤　壱ヶ村拾匁ツ、
一、荷呉(ママ)座四拾八枚　壱ヶ村六枚ツ、
一、針百弐拾本　木綿絹
一、絹糸八拾かせ　壱ヶ村拾かせツ、
一、秤八挺
一、火縄四拾八形　壱ヶ村六系ツ、
一、財布八ツ
一、白木櫃八ツ　品々入筥持下り用
一、黒半紙拾六束　壱ヶ村弐束ツ、
一、黒判切紙千六百枚　壱ヶ村弐百枚ツ、
一、千切八挺
一、薄縁四拾枚　壱ヶ村五枚ツ、
一、銀壱貫弐百匁　壱ヶ村百五拾匁ツ、

財布

銀

但、此壱口、御銀掛所ヨリ売物役え貸ニして相渡ス

売物役町人

一、売物役町人持下候諸色、田舎ニて旅籠料理方仕出役方へ、入用之品々此内より通帳ニて相渡、上使御用之節も売渡ス、追て上府之上御算用差立候事

弐ヶ所兼候て相勤候売物役へは弐ヶ所分相渡、品ニより相増しニ不及品も可有之、見計

野菜

田舎売物役

之事

右品々之外、魚菜類郷村ヨリ入用丈其所ニて売物方へ相請取、但魚菜之儀縄船方ヨリも相請取

〃田舎売物方用野菜、魚類之干物、其村々え用意之儀、御郡奉行所へ申遣ス

〃上使以下米・味噌壱日之当、府内売物方之細ニ記ス

田舎売物役

大山村　小村与兵衛
鶏知村　神崎喜兵衛
佐賀村　金谷又右衛門
仁位村　松井甚六
琴　村　丸嶋八右衛門
仁田村　熊中清兵衛
豊　村　小嶋甚兵衛
　　野田市兵衛
佐須奈村　諸岡吉兵衛
　　津原伊右衛門
深山村　梯忠右衛門

（西山佐平衛

鶏知・佐須奈

一、白餅米参斗　壱斗五升ツ、
一、白砂糖弐斤　壱斤ツ、
一、楊枝六袋　三袋ツ、
一、茶四斤　弐斤ツ、
一、付木弐拾把　拾把ツ、
一、すりこ縄弐束　壱束ツ、
一、白木箱弐ツ　壱ツツ、
一、黒砂糖弐斤　壱斤ツ、
一、炭六貫匁　参貫匁ツ、
一、壱斗練あめ
一、梅干六拾ウ
一、草り六拾足　参拾足ツ、
一、扇弐拾本　拾本ツ、
一、煙器四拾本　弐拾本ツ、

鶏知・佐須奈

黒砂糖

梅干

わらし

一、わらし参百足　百五拾足ツ、
一、割（ママ）多葉粉弐百匁
一、弐拾匁掛蝋燭四拾丁
一、茶碗六拾ウ　参拾ウツ、
内、弐拾う薄茶
一、並筆六本　参本ツ、
一、火縄六形　参形ツ、

叺

一、叺弐ツ
一、茶袋弐ツ
一、薬鑵弐ツ
一、七りん弐ツ
一、小批（ママ）杓四本
一、白保壱束
一、薄縁弐枚
一、日光膳百膳
一、春慶片木四拾枚
一、出羽庖丁弐丁

出羽庖丁

銀

一、銀百五拾匁　　七拾五匁ツヽ、

此銀掛所より貸ニして、売物方役へ相渡ス

両所共、先例昼飯切飯仕出候得共、寛政年は被相止、右之通用意差下有之候得共、切飯仕出ニ被仰付候得は、左之通相増候事

白米

一、上々白米六升

一、上白米壱石

一、白米五俵

一、味噌拾七貫弐百匁

上酒

一、大豆参升

一、上酒五升

一、諸白弐斗

一、醤油壱斗

昆布

一、酢参升

一、鰹節拾節

一、白砂糖参斤

一、昆布弐枚

一、椎茸六升

しよふか

唐辛

塩いわし

一、干大根参拾本
一、種油五升
一、白箸五袋
一、楊枝参袋
一、茶壱斤
一、しよふか壱升
一、焼塩参壷
一、付木
一、燈心
一、唐辛
一、胡桝（ママ）拾匁
一、干ふか四枚
一、漬大根弐拾五本
一、塩いわし参百ヶ
一、瓜香六盆
一、葛壱升
一、木綿袋四ツ

弐百匁掛ニして

塩鰤

こんにやく

硯箱

一、筵壱枚
一、縄壱把
一、細引壱筋
一、白木箱壱ツ
一、塩鰤壱喉
一、天王寺蕪参百ヶ
一、氷こんにやく弐百ヶ
一、塩参斗六升

〃佐須奈・鶏知仮番所用之品々は、田舎御宿々之細ニ記ス

一、御多葉粉参通
一、煙器六本
一、光悦硯箱参ツ
　銀銘弐本ツ、
　墨宝壱丁ツ、
　杉原紙壱帖
一、薄茶之椀参ツ

茶台

一、茶台参ツ

右佐須奈浦口御検分之節、御船中用、別て佐須奈売物役え相渡

但、鶏知村之分は、御付廻り御賄掛持越之分を以差配、無差支可致事

売物役

〃売物役之儀、上使御下着前広ニ銘々持下之諸品取揃、承り之村々え被差下、尤旅船弐隻(艘)借調、御賄掛三組田舎ニて旅籠賄下知役・売物役・茶屋亭主をも無合ニして、東目・西目乗り分り罷下候事

〃売物役勤方御書付被成御渡、此御役所ニて誓(ママ)旨被仰付、諸品直段帳壱組ニ壱冊宛相渡、尤御書付并直段帳共ニ手本弐冊出之、銘々方ニて書写させ、本帳ニ引合、常之字御本印押之、相渡候事

一、六匁畳六畳

一、薄縁参拾枚　　外ニ差釣参張、水夫着物、御郡奉行所用意

一、筵四拾枚

村船

右佐須奈浦口御検分之節、小隼え御乗被成節、村船三隻御手当、御乗被成候節之用

鶏知村

〃鶏知村御昼休之儀、先格御上府掛ケ御休被成候儀ニ相見、此節鶏知村・佐須奈村共一汁一菜之賄ニ被仰付置候、然処鶏知村之儀、御出立之日御休足(ママ)可被成段被仰聞候時、全く御手当無之、御手引も相成間鋪事ニ付、御賄掛并売物役御下り掛ケ之差配りいたし候ても、別段不被差下候ては、手配難相立相見、依て伺ニより御賄掛高山範之介被差下、左之通御手当ニ相成

候事

御賄掛
高山範之介
御賄方下代
瀧川吉兵衛
外ニ下代弐人
定竈弐人

弁当

一、御弁当参ツ　御三人様用
町ヨリ御借上ニして
但、田舎御持廻り之御弁当ニ類し候仕立ニして
〃御用人以下はいつれも切飯ニして、侍分ハ干物・香物相添、足軽・中間・小者計は香物計ニて差出候手当ニいたし候事
右御下村掛、若御休ニ相成候節之為メ、右之通手当いたし、御上府掛ケ之御休ミは、先規之通三組ニ被差下居候御賄掛・売物役・町料理人・配膳之者等夫々致差配候事
右之通御手当相立候得共、府内より御持越之分ニて相済、此節朝夕に差設ケニ相成候分は、いずれも御不用ニ相成候事

茶屋

茶屋々々　茶屋亭主　陶山庄作

七曲り　与七

大船越堀切　小船越と和板之間

八割

長曽根　糸瀬重次郎

黒長

いこひ曽根　曽根村と根松之間

しほり段　森田與兵衛

櫛之峯　志多賀村ト小鹿之間

伊奈坂　荒川正助

かるさ口　琴村ト舟志之間

幸山甚吉

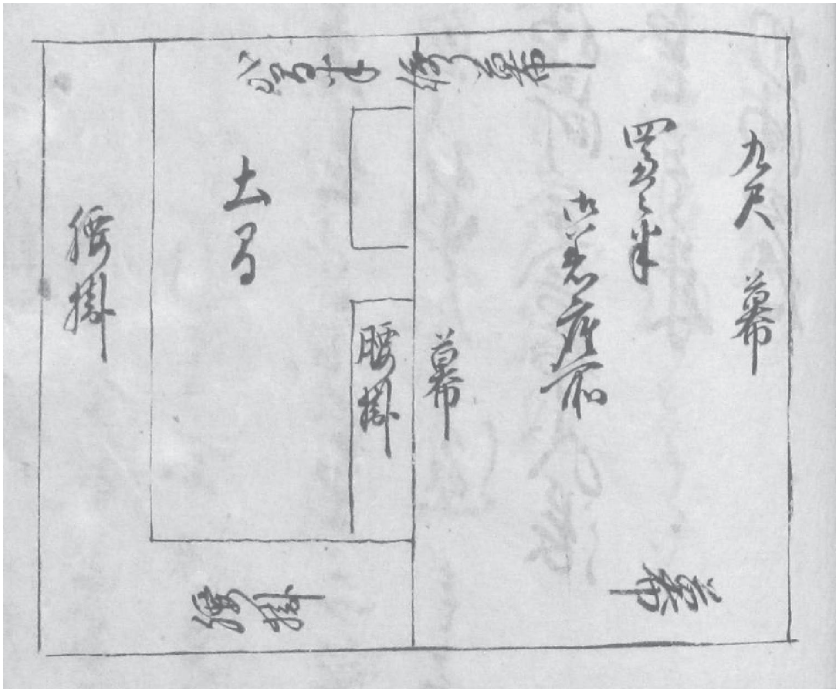
上之原　濱久須村と比田勝村之間

山城元右衛門

茶屋隈　河内と佐須奈村之間

井口平吉

右茶屋々々いつれも御郡ヨリ出来、尤七曲ニ限り、御作事方より出来候事


九尺 幕
幕
土弓
腰掛
腰掛

御茶屋

〃御茶屋
いつれも縄結柴壁
ニして、腰を新苫
壱枚通りツヽ蔀付ケ
不見へ、透様ニいた
し候事
〃苫葺也

図の右

御着座之間ト次之間、よ之
間ニ□交幕ニて張り回し
候事

〃御伺申上置候品有之、建方見合之事
〃売物茶屋入壱間桁間九尺
〃雪隠弐ヶ所
内壱ヶ所　上雪隠　茶屋近所ニ建候事
同壱ヶ所　次雪隠　売物屋近所ニ建候事

茶屋々々え兼て三替セニして差下置候品左之通、壱ヶ所分左之通
一、木綿□交幕弐張
一、丸盆壱束

一、苫桐油四枚
一、毛氈五枚
一、割蓋水桶壱ツ
一、裏付御座拾枚
一、批杓(ママ)大小弐本
一、縁取呉座参枚
一、水田子壱荷
一、銅大薬鑵(ママ)壱ツ

右之品々を三替セ分用意、手前之茶屋亭主参人え相渡差下

〃御茶屋拵之儀は、御宿拵之御作事掛支配仕、茶屋亭主え能々相含ミ、御茶屋拵為致、諸品繰替セ之儀は、御跡立之御作事手代差配仕候事

〃御巡検使御通り前、御茶屋々々え、右三為替之品々為繰替先々え差回、御座拵等夫々用意仕候事

〃七曲り御茶屋は、府内御作事方ヨリ建、諸品三為替分外ニ差越候事

茶屋亭主町人持下諸色壱ヶ所分

一、黒砂糖弐拾六斤

茶屋亭主

白砂糖

一、小豆壱斗参升
一、青土佐張たはこ盆参ツ
一、茶台壱ツ
一、茶弐斤
一、白砂糖壱斤
一、保口拾五袋
一、付木拾把
一、茶碗参拾ウ　外ニ百弐拾ウ増置
　内拾ウ　薄茶之椀
一、梅干参拾ウ
一、炭参貫匁
一、叺壱ツ
一、茶袋壱ツ
一、楊枝百五拾本
一、飴五升練ニして　付用木共ニ
一、黒砂糖壱斤
一、七りん壱ツ

飴

七りん

並筆

一、小批杓（ママ）弐本
一、出羽庖丁壱挺
一、参拾匁掛蝋燭五挺
一、割多葉粉百匁
一、草り拾足
一、並筆参本
一、薬鑵壱ツ
一、わらし百足
一、小墨壱挺
一、白半紙五帖
一、黒半紙五帖
一、すりこ縄壱束

春慶

一、春慶片木弐拾枚
一、火縄参形

きせる

一、きせる拾本
一、扇拾本
一、白米壱升　粉ニして

五徳

干鳥賊

杉箸

昆布

一、五徳壱ツ

右煎売無之節如斯、尤煎売被仰付候得ハ、左之通相増候事

一、水田子壱荷

一、諸白壱斗

一、白箸壱袋

一、白木箱壱ツ

一、あふりこ壱枚

一、干鳥賊五枚

一、干鱶壱枚

一、杉箸百五拾膳

一、醤油弐升

一、長ひしき参斤

一、貝杓五本

一、氷こんにやく百五拾ウ

一、塩鰤壱喉

一、割（刻カ）昆布五百匁

一、皿拾束

鍋

水茶屋

雪隠

一、片木百枚

一、鍋

但し、鍋は煎売被仰付候節は、近村之郷方より御借之上義及談置候事、七曲りハ別段可差下事

〈頭注〉「此節煎売無之候付、煎売用之品々ハ不差下」

〃七曲り御茶屋番人として御作事方ヨリ弐人、諸品差越候節より相付、依之別て人足は無之、右番人之夫ヨリ相勤候事

一、銀四拾匁　茶屋壱ヶ所ニ如斯

右貸しニして、御銀掛方ヨリ相渡候事

〃水茶屋亭主壱ヶ所壱人勤ニて難相凌、願ニ依り、下夕役壱ヶ所ニ壱人宛御付被下、飯米代銀壱日壱人銀壱匁壱分七厘ツヽ、上ヨリ被成下、賃銀之儀ハ壱日壱人弐匁弐分五厘宛ニして、町用銀ヨリ相渡候様被仰付、委細伺之細ニ有之

〃七曲り水茶屋之儀、九尺角壱ヶ所、腰掛付弐間ニ入九尺壱ヶ所、売物茶や九尺入壱間壱ヶ所、外ニ雪隠上下弐ヶ所、いつれも柴壁道木縄結ニして奇麗ニ取設ケ候様可致候

右七曲りは御作事方ヨリ差配、其外田舎御茶屋々々ハ、御郡ヨリ夫々取建ニ相成候事

佐須奈御役所

弓台

鉄炮

鳥毛鎗

佐須奈御役所

一、弓拾張
一、靱拾甫
一、弦拾張
一、根矢参拾手
一、弓台弐挺
一、鉄炮（砲）拾挺
一、皮袋拾ウ
一、筒乱拾ウ
一、玉入拾ウ
一、口薬入拾ウ
一、竹火縄拾形
一、玉単筒壱荷
一、鉄炮（砲）台弐ツ　五建掛ニして
一、鳥毛鎗五本
一、木綿幕参張　内弐張布御紋付幕
〃壱張木綿引両

内壱張仮番所用

一、紋紙屏風壱双　此屏風鰐浦御番所用

遠見鏡

一、遠見鏡参本
　内壱本　佐須奈御備分ニて相済候積り
　同壱本　此御番所有合
　同壱本　長崎へ修補として遣し置候分、但間合不申候付、亀谷卯右衛門ヨリ貸上候て当間相繕事

一、三ツ道具弐通り

手水桶

一、飾手桶六ツ　貝木三本添
一、御手水桶五ツ
　内参ツ　御召船用
　〃壱ツ　佐須奈御館御用所用
　〃壱ツ　鰐浦御用所扇善兵衛方

手拭

一、御手拭掛五ツ
一、御手拭五ツ　右同断
一、批杓五本
一、蛇目柿単羽織弐拾ウ　郷足軽着用

一、薄縁拾枚
一、水筈壱ツ　村方より借上之積り
一、張手甫拾五
一、水桶拾ウ
一、飛口六本
一、御手水桶・御手拭掛・御手拭・批杓は、御召船用之分ハ御船奉行所え相渡、其余御賄より差下候事
一、紺看板五ツ
一、寄棒弐本
一、紋紙屏風壱双　鰐浦御関所用
右佐須奈用、御関所方へ差下候事
一、御刀掛三
一、料紙・硯参　杉原壱帖ツ、添
一、御多葉粉盆参ツ　煙器弐本ツ、添
一、御茶椀三
一、御茶台三
一、薬鑵三

飛口
寄棒
刀掛

七りん

一、七りん三

右御賄掛持下り之内を以、御用相達候事

木綿幕

一、鳥毛飾鑓参本

一、鳥毛鑓立壱組

一、三ツ道具壱通

一、木綿幕壱張

一、結柴形付羽織壱ツ

一、柿羽織拾ウ

右綱浦御番所之分

綱浦御番所畳之儀御借上、御郡奉行所及役談置ク

綱浦御番所

以別紙啓上仕候、巡検御上使両御関所且佐須奈浦口被成御検分候ニ付、御用意之品々先規吟味仕候処、凡状末之通相見申候、尤留書不委候付、猶其筋御吟味之上、品々御問筈能被差下候様御手筋へ御差図奉希候、右ニ付御関所方ニて用意仕候品は、郷方え相達、先規之通り用意可仕候間、左様御承達可被成下候

関所

〈頭注〉「御付紙　条々承届、頭書、且付紙を以相達候」

一、鰐浦御関所御検分之節、御備之御用所、寛政年之節同村給人扇善兵衛方へ御用意被仰付候

と相見候付、当春御普請方役々下着之時分申談、右善兵衛方御普請所も見分相済居申候、
就夫右家御借上之儀、先規御関所ヨリ相達有之と相見申候、当節も御関所ヨリ相達可申候
哉、亦は御手筋を以御達可被成候哉、いつれ共御差図奉希候

〈頭注〉「御借上之儀、手筋を以相達候」

一、上使御下向ニ付、爰許諸用意勤向等之儀は、先規御書付御渡ニ相成候事と相見候付、当節
も其通可被仰付事、品ニより心得方又々御伺申上候儀も可有之御座候、御書付成丈ケ早々御
渡被成下候様奉希候

〈頭注〉「承届候」

横目中

一、御横目中之儀、以前より人数相減居候得は、万一上使御下向之時分乗渡等ニて人数相減候
ハヽ、御見掛之儀ニも御座候間、佐護郷給人宮原中之内相応之人御雇被仰付如何可御座哉之
旨、寛政年御伺申上候と相見申候処、乗渡等ニて相減候共、現人数を以可被相済候、給人宮
原中差支有之段、御達ニ相成居申候、当節は如何相心得可申候哉

〈頭注〉「乗渡等ニて御横目相減候共、現人数を以可被相済候」

郷足軽

一、御横目大小姓御横目加番郷足軽御雇、何方ヨリ可被仰付候哉、寛政年ニは御伺申上候処、
加番之給人并郷足軽之儀、豊崎・佐護両郷え申達、手数之通取計候様被仰付候と相見、当節
は如何可被仰付候哉、御手筋を以御達可被成下候哉、又は御関所方ヨリ之差配ニ可被仰付候
哉、御差図奉希候

右之段御伺為可申上如斯御座候、何れも早々御差図奉希候、恐惶謹言

十月廿五日　　御横目中

樺嶋順右衛門

佐治英之允

古川主典様

田嶋左近右衛門様

幾度八郎左衛門様

御紋付幕

覚

一、御紋付幕参張　内壱張陰御番所用

但、先規布幕張候儀と相見候処、寛政年布幕御有合無之、木綿幕ニて相繕候様御差図有之、木綿幕ニて相済候と相見、且最初ニ御用意方御伺申上候節、不吟味ニて壱張と申上、其御手当ニ相成居候処、弐張無之候ては張合せ難相成、其段又々申上候得共、御手不被届段御返答有之、差掛候事故、陰御番所用之幕を浜御番所へ相用、陰御番所えは、古幕を相用、御当間を合セ候と相見、然処只今当所ニて相用罷有候古幕は殊外古損居、陰御番所ニも難相用程見苦敷相成居申候付、当節は何分浜・陰共三張御差下被成下度奉存候

幕

張弓

鉄砲

＜頭注＞「当節は布御紋付幕弐張、木綿引両幕壱張差下方相達置候間、浜御番所へ御紋付幕張、陰御番所は、木綿引両幕ニて可被相済候」

此御役所掛紙

幕之儀、寛政年は弐張差下有之候処、此節は陰御番所用幕も古損居候と相見申候付、来状之通参張り差下候様手当可仕候、夫ニ付状面之様子ニては、御紋付布幕を張候事と相見申候得共、此役所留書ニは、寛政年引両幕差下候段相見申候間、其通り手当罷有候事故、当節も引両之木綿幕参張被差下候段、御達越し被下度奉存候

一、張弓拾挺　　飾御台共ニ

但寛政年張拾五指御差下ニ相成居候と相見申候

＜頭注＞「以下三ツ道具迄早々差下方相達置、尤其内弦拾差、火縄ハ竹火縄拾形差下候」

一、靭拾甫

飾付ニ根矢参手ツ、指と記有之候付、吟味仕候処、最初根矢弐拾本御差下ニ相成、其後申上候品ニ付、追て弐拾手御差下有之、都合参拾（ママ）手ニ相成候故、三手ツ、指候と相見申候

一、鉄砲拾挺　　皮袋入飾台共

但胴乱玉入・口薬入いつれも拾ウツ、、木綿火縄拾形

鳥毛

鳶口

弓台

一、玉箱壱荷

一、鳥毛五本

一、三ツ道具弐通　浜・陰両御番所用

但、只今当所有之候品、殊外古損し居難御用ニ立、寛政年ニも浜・陰両御番所ともニ弐通新規御差下ニ相成候と相見候

一、鳶口六本

但、延享年ニは飾之、寛政年ニは不委候付、如何可被仰付哉之旨、寛政年ニ御伺申上候処、当節は不及其儀旨御達ニ相成候と相見、当節は如何可被仰付候哉

＜頭注＞「飾ニ不及候」

右浜・陰両御番所飾用

此役所掛紙

一、弓拾挺

一、弦拾差（ママ）

但、拾五指寛政年差下有之段相見申候得共、此御役所ニは拾指差下候と相見申候間、此節も右之通差下候御手当仕罷有候

一、弓台弐挺　五挺掛ニして

竹火縄

一、根矢参拾手
一、鉄砲拾挺
一、皮袋拾ウ
一、胴乱拾ウ
一、玉入拾ウ
一、口薬拾ウ
一、玉箪笥壱荷
一、竹火縄拾形
　但、先規木綿火縄と有之候得共、寛政年も竹火縄ニて相済候付、此節も同様ニして
一、鉄砲台弐ツ　五挺掛ニして
一、鳥毛鎗五本
一、三ツ道具弐通

〃鳶口六本浜・陰両御番所用、宝暦年・寛政年共ニ相見不申候、此節如何可被仰付候哉、両例被差下候儀相見不申候間、用意仕居不申候間、此節被差下候御事ニ御座候ハヽ、用意方御差図可被成下候事

船奉行所

小隼

村船

此役所掛紙

以下九ヶ条御船奉行所御吟味之事

一、小隼壱隻

但、寛政年安全丸被差廻候と相見申候、最初爰許ヨリ之御伺ニは、御役付赤幕張之木綿差釣り、屋形之内胴之間畳敷之、其外薄縁り敷之と申上候と相見、当日御飾有之候は、御紋付紫幕紺天幕張之と記し有之、赤幕紫幕之違御座候付、其筋御吟味之上、いつれニても宜品御用意御差下被成下度奉存候、且其外御船印鎗・張弓・靭・袋入鉄砲・桐油等之品々、先形之通御船奉行所ニて用意御差下ニ相成候儀と奉存候

〈頭注〉「当節は、村船御借上之積ニて、其元へ漕廻方ニ至り、手筋を以相達置候、且ツ上ツ乗壱人御船手参人差下候間、郷水夫四人手当可被致候、飾品々看板共、右之者共差下候節、持下候積りニ候」

一、舸子着物

但、右小隼乗組人数ニ応し御差下可被成候

〈頭注〉「以下八ヶ条手筋へ相達置候」

一、村船六隻

但、近村之村船御借上御関所用意、内参隻御召用、大竹ニて屋形出来、屋形之内切合苫表之畳敷之、其外薄縁敷之

舸子

一、舸子着物参拾ウ

但、御召船三艘之船頭肝入自分着物、其外何れも舸子着物着用、尤御召船六人乗、御供船五人乗ツヽと相見申候

一、木綿幕参張

一、同さしすり参

一、暖簾幕参張

但、寛政年□簾幕御差下ニ不相成、御召船屋形と艫之間ニ張候儀ニて、甚以御不都合之処、御三方様御一所ニ小隼え御乗組ニ相成、其場相済候と相見、当節も小隼え御一所之御乗組ニも可相成候得共、折角御備之事故、御都合能御差下ニ相成候様有御座度奉存候

一、桐油

但、御召船参隻分雨天之節、雨覆用

一、弐寸釘百五拾本

但、御召船屋形出来用

遠見鏡

一、遠見鏡参本　御召船三艘ニ備用

但、寛政年壱本ニて相済候様御達し御座候付、佐須奈口御見分之節、御三方様御一所之御乗組ニ相成候得ハ、壱本ニて可相済候得共、御銘々様御乗分レ被成候時は相済間

敷、尤御筆口之御方様御乗船へ下知役持乗候而已ニて、宜鋪可有御座哉之旨御伺申上候処、爰許御備之遠見鏡共追々都合参本御差下ニ相成候と相見申候

〃兼て爰許え御備之遠見鏡は、遠見番所へ相備置候儀と相見、既寛政年鰐浦之方へ差越置、彼場所御御検分相済、直ニ通し飛脚を以爰許御着前ニ取寄候と相見、当節も其通取計候時、現弐本御差下ニ相成候ハヽ、都合参本ニ相成、御都合能取計之道も可有御座哉、いつれ共宜御差図奉希候

刀掛

多葉粉盆

此役所掛紙

遠見鏡之儀、此節府内より弐本被差下候手当仕居候間、壱本ハ彼地御備之品ニて相済候様被仰付度奉存候事

一、御刀掛三

〈頭注〉「以下九ヶ条、早々差下方手筋へ相達置候」

一、料紙・硯三通

但、杉原紙一帖ツヽ、添

一、御多葉粉盆三

但、煙器弐本ツヽ、

一、御茶椀参ツ

七りん

飾手桶

一、御茶台参ツ
一、薬鑵参ツ
一、七りん参ツ
右品々御召船用

此役所掛紙
一、御刀掛
一、料紙箱
一、御多葉粉盆
一、御茶椀
一、御茶台
一、薬鑵三ツ
一、七りん

此品々用意仕罷有候間、先規之通御賄掛持下之事ニ御座候間、此節も御賄掛可被差下候間、持下候様仕度奉存候事

一、飾手桶六ツ　貝木共
但、御館御門両脇ニ飾之候事

手桶

一、張手甫拾五

但、同所御門桁ニ備之置候事

此役所掛紙

飾手桶・張手甫等用意仕居候間、差下可申候

一、鳶口六本

一、茶せん円座

一、大水筈壱ツ

一、手桶拾ウ

但、寛政年拾ウ御差下被下方申上候処、四ツ御差下ニ相成、御見掛甚以見苦敷有之候付、重て之度ニは、是非拾ウ御差下ニ相成候様可申上候由留書ニ相見申候、依之当節は拾ウ御差下被成度奉存候

右品々、御館御門内石垣際ニ道具建出来相備置候事

此役所掛紙

此四品之内、鳶口六本、手桶拾ウは用意仕居申候、茶せん円座之儀は被差下候儀相見不申候間、手当仕居不申候、大水筈之儀は頃日器物吟味として被差下候御役々ヨリ、郷方談しも仕置候間、猶御関所方ヨリ村方へ被相達候ハヽ、御貸上可仕と奉存候、其段御達越被下度奉

存候

〈頭注〉「当節は、鳶口・茶せん円座飾ニ不及候、大水筈・手桶之儀、場所見計飾可置候、但、手桶拾ウは爰元より差下方相達置、大水筈之儀は、先般下村之役々より談置候訳有之と相聞候ニ付、村方へ相達、御借上ニ可被取計候」

一、御手水桶五ツ　　内参ツ　　御召船用
　　〃壱ツ　　佐須奈御館御用所用
　　〃壱ツ　　鰐浦御用所扇善兵衛方へ

〈頭注〉「以下七ヶ条品々差下方相達置候」

一、晒御手拭五　　右同断
一、御手拭掛五　　右同断
一、小批杓五本　　右同断
一、蛇目付柿対羽織リ弐拾ウ
　　但、組下横目着用

手拭掛

此役所掛紙

いつれも状面之通差下候様手当仕罷有候

紋紙屏風

一、紺看板五　　壱番用

一、寄棒弐本　　木戸御門外警固用

但、此弐品寛政年御差下ニ不相成、甚御不都合之由、留書ニ相見申候間、当節ハ御差下被成度奉存候

一、紋紙屏風壱双

但、鰐浦御番所用

此役所掛紙

鰐浦御番所紋紙屏風壱双差下方、此役所留書ニては、佐須奈御番所用として金引両之屏風壱双差下し有之候ヨリ外無之候を以は、右屏風を鰐浦え取遣有之共歟と被相考申候間、此節も壱双被差下、夫ニ付此節は金引両之屏風可被差下候哉、又は御関所状面之通紋紙屏風ニて相済可被成候哉、いつれとも御差図可被成下候事

〈頭注〉「鰐浦御番所屏風ニ不及候、但、当節も紋紙屏風壱双差下方相達し置候も、佐須奈御番所へ相備置候、万一御用所え御出被成候儀も候ハヽ、其節見計御仕舞被成候処え可被相用候」

一、御館入口之御門木戸御門と唱、寛政年迄は当時右御門角柱黒塗之冠木門御座候間、竹しほり戸ニては不釣合ニ可有御座、板を以木戸出来可申候哉

雪隠

＜頭注＞「板ニて透戸可被出来候」

此役所掛紙

状面之通板ニて透戸出来候様被仰付如何可有之候哉

一、上使浦口御検分として御出之節、御備之御用所御館内訳官雪隠と申伝候を掃除等申付、御手水桶・御手拭等用意仕置候と相見、当節も其通取計可申候哉、尤右様之節、御服御脱被成候場所も無御座候て、万一御不都合共ニは有御座間敷候哉、其場所留書ニ相見不申、依ては御行規之間ニても屏風ニて相囲、仮成ニ取繕置不申候て可宜候哉、就夫爰許ニおいて役々衆議仕候は、御備前件之通相見申候処、御館内ニ御立入ニ相成御見分御座候ては、御構外向之御取繕と内向之有様とは表裏之違格別ニ有之、只今之姿ニては、ちと御気毒成様相見申候付、先規ニは違候得とも、浜御番所之用所を新規ニ御取建テ被成、御用所之御備ニ相成、希くハ、御館内御見聞無御座方可宜共ニは有御座間敷候哉、尤右之趣当節下村之御普請役々えも及御役談置候品も御座候ニ付、上府之上尚御承達被成下、いつれ共御差図奉希候

但、御供用之所用は持廻切組を相用候事と相見申候付、場所見計用意仕置可申候

＜頭注＞「心付之趣尤ニ相見候付、浜御番所新規御取建被仰付候、尤此節府内役々下村之事故、申談御用便宜可被取計候」

小隼引付

御館木戸

此役所掛紙

上使浦口御検分として御出之節、御備御用所之儀、御関所方ヨリ御普請方役々示談之訳も有之と相聞申候間、御普請方役々上府之上承糺、追て可申上候

一、波戸え小隼引付候節、潮ニ依船付不申候付、延享・宝暦年之通、松丸太ニてわくを拵へ、其上ニ歩ミ板を敷、潮満干ニ不拘船付候様出来可仕哉之旨、寛政年相伺候処、御巡検使御関所御到着之刻限ニ依、潮満干有之船着兼候節は、波戸場雁木際ニ村船三隻横ニ繋、右船之上ニ御米漕船之歩ミ板を渡し、其上ニ板を敷、能張付置、御往来被成候様可申付旨被仰達、其通取計候と相見、当節も右之通相心得可申候哉

〈頭注〉「当節も寛政年之通可被取計候」

此役所掛紙

波戸え船付候節、歩ミ之儀御普請方役々よりも先達て申越候付、幅壱尺余之厚板を弐枚用意、左右え欄干を出来、見苦無之様出来方及差図越申候処、御関所状面ニも御座候通、御米漕歩ミ板ニて相済、両脇ニ松丸太を置候て相済候と御関所方留書ニ相見候ニ付、其通可取計旨申越居候、此節御関所状面之趣を以可然御差図可被成下候事

一、御館木戸御門際より波戸雁木迄御通筋、幅壱間砂を置、両脇竹ニて砂留出来候先規ニて、寛政年御調申上候処、当節は不及其儀旨被仰達候と相見、此節は如何相心得可申候哉

鰐浦御館

＜頭注「砂を置候ニ不及、尚条書を以相達候」

一、鰐浦御館御構内之柴垣、寛政年ニも荻垣出来候と相見申候付、当節も荻垣出来可申候

＜頭注＞「承届候」

右之条々、御差図可被成下候、以上

十月

以別紙啓上仕候、巡検上使御下向ニ付、諸方往復相増し、殊近年諸品之品位悪敷、平常さへ御定式之筆・墨・紙ニては不足仕候儀ニ御座候、就夫纔なからも御出方筋申上候段、御事体柄不勘弁奉存候得共、右様臨時之御用相増候節は、御増渡被下置候事ニて、既ニ寛政年之度ニも御増渡被下置候と相見申候間、何卒当節も御増渡被成下候様奉希候

一、上使両御関所御検分之節、御館内見掛之場所障子建切置候事と相見、切替等ニて見苦敷御座候付、見掛之障子張替用之半紙・生麩・はけ、紙末之通寛政年之度ニも御渡被下置候と相見候付、当節も右品々御差下被下候様御手筋へ御差図奉望候

右之段、為可申上如斯御座候、恐惶謹言

十月廿五日　　御横目中

樺嶋順右衛門

佐治英之允

白半紙

百田紙

墨

古川主典様
田嶋左近右衛門様
幾度八郎左衛門様

一、白半紙参束
一、筆拾八本
一、墨拾挺
　但、筆・墨御定式御渡被下候品位ニて宜敷御座候
一、黒半紙参束
一、黒半切百五拾枚
　但、此両品爰許ニて御定式之紙為相納候通ニて、田代屋ヨリ相請取置可申候
一、百田紙五束
一、筆五本
一、墨壱丁
　記録
　但、筆・墨之儀、御定式御渡被下候品ニてハ、書載方難儀仕候付、御書札方へ御渡ニ相成候金銘筆・墨寶ニて御渡被下候様奉願候、尤御在合無御座候ハヽ、自分ニおゐて用意仕候間、代銀御渡被成下候様奉願候

〝寛政年之度、百田紙四束筆四本、並筆ニて御渡被下品位悪敷、紙は不足仕候付、重て之度可奉願旨、留書ニ相見候故如此奉願候

右御増渡奉願候分如斯

一、白半紙参束

一、生麩参合　　生麩

一、はけ壱枚　　はけ

右障子はり替用、寛政年如此御渡被下候と相見申候

以上

此役所掛紙

何れも御差下被下度奉存候、尤其内記録仕立用之墨・筆は、諸役所之釣合も御座候事故、島銘筆・脚形墨ニて被差下置奉存候

縄船方

一、曲り海人船壱隻　四人乗ニして　　縄船方

但、以前より公役ニて相勤、飯米壱日壱人白米九合ツ、、人計之積りニして飯米相渡

〃抒上之鮑・さゝへ之代銀は不被成下候

〃上使勝本御着之段相知候後、令上府候様申付候事

〃壱日薪参貫、明し松見合、御郡より田舎ニては其村々ヨリ相請取候事

〃潜候日計乗組中へ、並酒弐升被成下、抒不仕候日は飯米計被成下

網船

一、網船壱艘　佐野屋正左衛門請持

但、賃銀・飯米等一体、上ヨリ御構無之、追て御見合被成下有之

一、縄船壱艘　馬場喜右衛門請持

但、拝借銀等一切無之、御定直段を以釣上之魚売上、田舎御付廻をも相請持候事、尤府内・田舎共自分より生洲(簀)致置、無御用欠相勤候事

〃喜右衛門請持縄船田舎御付廻り之間、差配人壱人為乗組差下度、就夫右雇賃銀は、其身ヨリ相弁、飯米は上ヨリ御渡被下候様願出候付、閏四月廿一日ヨリ五月朔日迄ニして、日数拾日分、壱日白米四合五勺ニして相渡ス

縄船

一、縄船壱艘　飯野源兵衛

但、縄船壱隻ニて被相済候積りニて、御達ニ至居候処、壱隻ニては可難行届、縄船下知之人ヨリ申出ニより追て壱艘相増、馬場喜右衛門通付にて相請持、御用相勤候事

賃銀

賃銀・飯米

一、銀参匁　　御待請之間、稽古之節之壱日如此賃銀被成下

一、同弐拾壱匁　　田舎御往還中、壱日壱人如是

一、同弐匁弐分五厘ツ、

但し、御着際ニ至り夜分稽古方令出精候段、人馬方ヨリ申出ニより壱夜如是ツ、、被成下候事

右上使御駕籠夫参拾人之内、御作事抱之拾五人分如斯

雇夫

〃府内雇夫之賃銀定りは無之、抱込候節之極メ次第、尤、寛政年は当時番手より召仕候付、扶持切米は常之通被成下、外ニ壱日白米壱升宛被成下候処、此節は雇付不相届、右之通相極候事

〃田舎売物役之儀、以前より繁多之勤向ニて下代弐人ツ、被相付来候処、此節は人繰り不相成不得止事、壱ヶ所ニ下タ役壱人、賃銀渡ニして壱人前九銭弐匁ツ、相渡相済候事

〃茶屋亭主中ヨリ願ニより下タ役壱人宛御渡被下、委細茶屋々々之細ニ有之

一、六銭壱匁五分　　府内逗留之間

一、同壱匁　　

一、白米壱升　　田舎往還之間

駕籠夫

御郡ヨリ之駕籠夫拾五人、壱日壱人前

府内売物方

田舎下魚屋

府内料理人

〃御巡検使ニ付、町ヨリ差出候御役々付人之儀、壱人賃銀八分宛ニ候処、竈数少く人数ニ不相揃候付、御着之当日八拾人程之入用夫之内、弐拾人程は町ヨリ差出候付、残六拾人不足之分、壱人銀弐匁弐分五厘ニして賃銀上ヨリ被成下、委細伺之細ニ有之

一、六銭壱匁五分　府内売物方へ被仰付候下代弐人・升取弐人、壱日壱人賃銀如斯

但、役所相始候日ヨリ上使御出帆迄一統之賃銀相渡、御出帆翌日ヨリ御算用済迄、下代壱人・升取壱人之賃銀相渡候事

一、同壱匁五分　田舎下魚屋・八百屋壱人壱日賃銀如是

但、府内売物方へ被相付候魚屋・八百屋えは日々之賃銀不被成下候事

一、壱匁五分宛　田舎下り売物役・茶屋亭主・町六拾人、壱日壱人旅籠銀如是

一、同壱匁弐分宛　右同断、下旅籠銀如是

〃府内売物役は、賃銀・飯米等之被成下無之、追て真綿代銀ニて称與被成下候事

一、六銭弐匁宛　田舎下り町料理人壱日壱人賃銀如是

一、同壱匁六分宛　田舎下配膳之者右同断、賃銀如是

一、同弐匁宛　府内料理人右同断、賃銀如是

但、御着間近ニ相成候付、前広諸品取揃として、日数四日分総出賃銀相渡、其跡間を置、御着之日ヨリ田舎御下之日迄、御上府之前日ヨリ御出帆之日迄、賃銀相渡候事

一、同壱匁六分宛　同配膳下代之者右同断、賃銀如是

但、御着御間近ニ相成候付、御厳達之品ニヨリ取設方として、前広ヨリ諸品取揃迄総出、其跡は弐人ツヽ、御着前日迄、御着当日より田舎御下之日迄総出、御留守中弐人ツヽ、御上府前日ヨリ総出、御出帆跡御賄方上納之品々ハ素り町借上之品、御返下相済候迄両日程罷出候、寛政年は御出帆翌日上納相済候へ共、此節は御賄方手配方ニより、両日之上納ニ相成候付如是

豆腐屋

一、六銭壱匁五分　豆腐屋弐人　壱日之賃銀

一、同参拾匁　弐人中

但、田舎付廻りニ付、諸道具自分ヨリ持下り候付、損料銀如是

うとん屋

一、同壱匁五分ツヽ　うとん屋兼たはこや壱人　壱日賃銀

一、同参拾匁　弟子壱人　右同断

一、同参匁五分　府内御宿用薪五拾疋、真下西平御立山ヨリ御伐らセ被成候付、薪壱疋伐賃如是

但、寛政年参匁ニ候得共、此節は御郡奉行所より役談ニヨリ五分相増如是

山伏

〃御着船之節、遠見御番所へ両派山伏ヨリ貝を吹候様被仰付、筑前若松御着之御左右到来之上、遠見番所へ壱人相詰候日ヨリ白米壱升・挑灯弐張、夫之者壱人御渡被下

隣国

御巡検使御隣国之御振被聞合候人え之御充行

表大小姓

川邊一角

上下参人

一、米参俵六升六合六勺六才　滞米半減ニして

一、同参俵参斗壱升壱合　季拝借半ヶ年分

一、銀弐拾匁　取切御合力銀

一、同拾匁　若堂(宛)壱人(ママ)月御合力

但、貸ニして帰国之上日割ニして相渡候事

一、船中飯米御定法之通

博多逗留中

一、博多逗留中旅籠上下参人

上、壱日壱匁五分

下、同壱匁弐分ツヽ

右御巡検使ニ付、隣国之御振り聞合、且御下向時節相知候迄、博多え被召仕候ニ付、如是御宛行相渡ス

役々え相渡候書付之控

覚

売物役

御巡検使就御下向各儀売物役被仰付候、随分念入可被相勤候段、直段之儀は、御印判帳之通少しも高下無之、升目・斤目等諸事廉直ニ可被売渡候事

売物直段

一、売物直段之儀、若御家来衆ねきり被申候ハヽ、兼て役方ヨリ被申渡候は、少も掛値を不申様ニと堅被申付置候付、毛頭掛不申由可致返答事

一、御徒士目付御勘定手代出張候間、売出候品々見分を請、払帳ニ右両人内証印被請置、御算用可被差立候事

一、諸色御調物之儀、彼方ヨリ御印鑑被成御渡候付、則各方え相渡置候間、御印鑑ニ引合可被売渡候、自然御印鑑持参無之人ニは、売渡不申様ニと兼て御巡検使より被仰渡置候間、左様可被心得候

一、御巡検使御調物有之節は、其品御宿亭主方え承届、各方ニは御宿亭主方より申通候様ニ、兼て御宿主と可被申合置候、若御調物壱度ニ数々有之節は、亭主ヨリ御家来衆へ申達書付来候ハヽ、其品々取揃、手目録相添可被差出候、左様ニ無之御調物之度毎ニ各御宿へ被罷出候様ニ有之候てハ、人少ニ有之候ニ付、手捌不宜役所も空キ、御三方之御用差支可申候間、被得其意、不罷出候てハ不叶御用之節計可被罷出候事

一、御巡検使御調物之品々、彼方之帳ニ被記之、御発駕之節ニ至、代銀相済候証印を各被押候

様ニ有之候ては、御発駕ニ差障可申候間、御調物之品々各方ニて帳面ニ印置御発駕之節は代銀相済候証印を被仕、御家来衆へ帳面可被相渡候事

希物

一、御希物之儀、漁合ニ依候ては請負方縄船壱艘ニては御用支ニ可至哉ニ付、府内縄船之釣上之魚脇売被差留、魚問屋ヨリ其時々之相場を以可被相調候、請負方釣上之分は、縄船奉行より夫々可被相請込候、且又浅海日魚も納次第御賄方ヨリ各方え可相渡、佐野屋正左衛門手繰網之魚、其外曲り海人潜上之鮑さゝへ共ニ、縄船奉行ヨリ相請取、御用可被相立候、尤久田売物役方ヨリ生魚之儀申来候ハゝ、可被相渡候

付、各方え請込候て、床え被出置候生希目付悪く、御用ニ難売出程ニ成り候ハゝ、塩いたし被置候て、風波強不漁之節、御用ニ可被相達候、尤久田売物役方へは、塩魚専ら可被相渡候

青物

一、青物之儀は、御得意之八百屋方より各方へ請取、御用可被相達候事

一、右縄船方魚之儀、御定直段を以て御買取ニ相成儀ニ候間、魚数は素り寸尺等御勘定手代・御徒士目付見分を請、被相極可被相請取候、縄船方へ代銀御払被下方之儀、御算用前ニて代銀相払候手数ニ可被心得候事

但、縄船奉行ヨリ請取、通帳ニ代銀を付可被相払候、尤田舎ニて釣上ヶ、田舎売物方用ニ請込候分も、追て各ニて代銀相払候様可被致候

一、青物之儀も、八百屋ヨリ則御定直段を以御買取被成候儀ニ候間、厳重吟味之上被相請込、

是又各方御算用前ニて代銀払候手数ニ可被相心得候事

一、直段帳外之品御望被成候節は、町方ヨリ相調御用可被相達候、尤直段之儀其度々相極メ可申候間、其度毎ニ此方へ可被伺出候事

一、御巡検使御上船被成候ハ、、各儀久田村へ罷越、府内同前ニ御用可被相達候、尤彼方御船付ヨリ之取賄ニ候間、諸色御船付衆より被相調候義故、無滞売渡候様可被心得候事

右之通、念入可被相勤候、無申迄候得共、御相手も違候事故、何事も万端心を用可被致精勤候、以上

月　日　　御勘定奉行所

府内

売物役中

覚

御巡検使御乗船、久田浦え廻り候節、乗組中之用売物役各両人え被仰付候、随分念入可被相勤候、塩肴・野菜此分持越、御用相達候様可被致候、尤直段帳相渡候間、少も高下無之様ニ廉直ニ可被売渡候

塩肴・野菜

一、生肴被望候節は城下え申遣し、有合候分取寄、御用相達可申段被返答、被相付置候夫之者早々府内え差越、御巡見使御用肴之内、余慶（余計）有之分取寄、売渡候様可被致候、尤余分有之節

生肴

穀物

は差越候様、府内売物方役中可被申談置候事

一、穀物其之外何品ニよらす、相調度由被相望候ハヽ、御望之品可被仰聞候、当所え不持越品は城下え申越、取寄御用相達可申候、仮令城下え御越被成候ても御不案内有之、難相達可有御座候段致挨拶、直段之儀は直段帳通致差引、入用之諸色不差支様用事可被相達候事

右之通、念入可被相勤候、以上

御勘定奉行所

久田村
売物役中

覚

今度御巡検使御下向ニ付、各儀田舎売物役被仰付、随分念入可被相勤候、直段之儀は則御印判帳之通、少も高下無之様、升目・斤目諸事廉直ニ可被売渡候事

売物直段

一、売物直段之儀、若御家来衆ねきり被申候ハヽ、兼て役方ヨリ被申付候は、少も掛直を不申上候様ニと堅被申付置候付、毛頭掛直は無御座候由返答可被申候事

一、売物方え以前ヨリ目付役被相付候儀ニ候得共、此節は売物方・御料理方兼下目付壱人被相付候間、諸般弥厳密可被相勤候事

一、諸色御調物之儀、彼方ヨリ御印鑑被成御渡候付、各え御渡被置候御印鑑ニ引合、可被売渡

魚物

候、自然御印鑑持参不致人ニは、売渡不申様ニと兼て御巡検使ヨリ被仰渡置候間、左様ニ可被心得候事

一、御巡検使御調物有之節は、其品御宿亭主ヨリ承届、各方えは御宿亭主方より申通候様、兼て御宿亭主と申合可被置候、若御調物壱度ニ数々有之節は、御書付被下候様ニと御宿亭主方ヨリ御家来衆へ申達、書付来候ハヽ、其品々取揃御目録相添可被差出候、左様無之、御調物度毎ニ各御宿ニ被罷出候様有之候ては、人少ニ有之候付、手捌ケ不宜、役方も空キ、御三方之御用差支可申候間、度毎ニ各持参ニ不及候様可被仕候事

一、御巡検使御調之品々、彼方之帳面ニ記之、御発駕之節ニ至りて代銀相済候証印を各被押候様有之候ても、御発駕ニ相障可申候間、御調物之品々各方ニて帳面ニ被記置、御発駕之節は、代銀相済候証印を被仕、御家来衆へ帳面可被相渡候事

一、為御肴用縄船、曲り海人船ヨリ差出候肴物、縄船奉行ヨリ不残各方へ被請取、御巡検使方御用被相達、余り候分ハ御賄掛方へ可被相渡候事

一、村方ヨリ魚物其外野菜可相納候間、村役人被申段無御用支様可被請取候事

一、縄船釣上之魚は、常々直段を以御買上ニ相成候事故、縄船奉行方より相請取候様、御付廻り御勘定手代見分を請、寸・合等被致吟味可被相請取候、尤代銀払方は、追て府内於売物方相私候積ニ候事

一、足軽・又者付飯之米・塩噌、各方より夫々可被相渡候、尤壱日分ツヽ仕切、宿々え亭主へ

飯米

可被相渡候事

付り、飯米之儀は、壱日ニ朝昼晩三度白米七合五勺ツヽ、塩噌之儀は、朝晩計之積りニ可被相渡候、尤雨天ニて御巡検使御逗留被成候ハヽ、其日は昼飯之分被相渡間鋪候事

一、此度は、売物目付不被相付候間、弥厳密諸事可被相勤候、御時体違候故万端御費無之様随分心配可有之

右之通、念入可被相勤候、以上

己四月　　御勘定奉行所

田舎

売物役中

売物方

覚

今度御巡検使就御下向、各儀売物方用魚肴取揚奉行役被仰付候間、随分念入諸般廉直ニ可被相勤候

一、縄船壱艘被相付、馬場喜右衛門へ請負申付候、此縄船釣上之魚脇売被差留候間、釣上之分不残被請込、寸・尺廉直ニ相極、帳面ニ記し置、売物方役人え仕合帳を以可被相渡候、尤縄船釣上之魚は、御定直段ニて売上ニ相成候間、料理方へ不相用魚は被請取間鋪候

一、右縄船壱艘ニては、不漁等之節は御用差支候間、府内縄船之釣上之分も脇売被差留候事

御定直段

鮑・ささへ

一、府内・田舎共ニ、縄船請負方ヨリ相納候魚は、常ニ御定直段を以御買上被成候儀ニ候処、其魚寸・尺吟味方之儀、各方ニては手届申間敷候間、売物方へ各方ヨリ請取候節、御徒士目付御勘定手代見分を請、寸・合等吟味いたし、代銀差引相極候手数ニ売物方へ申渡候間、其段可被相心得置事

一、佐野屋正左衛門ヨリ先規之通、手繰網肴差上候積りニ候間、請込、売物方へ可被相渡候事

一、曲り海人船壱隻、是又各方へ御預ケ被成候間、挙方致下知、取揚之鮑・ささへ不残請込、上使御着船前之分は、御賄方へ可被相渡事

尤挙候日は、飯米外ニ乗組中ニ並酒弐升宛被成下候先格ニ付、此度も其通り可被仰付候間、各方へ役方ヨリ酒請取被置候て、潜仕候日、右之通可被相渡候、若半日内相挙候歟、又は無精成挙方ニも被見請候ハヽ、被相渡候ニ不及候、尤各内海人船ニ乗組少も不令由断様可被加差図候

一、上使御着船之日迄、府内浦ニて被為挙、取揚ケ之魚肴、売物方へ可被相渡候は素より、上使田舎御巡検之節は、御発駕前日ヨリ御泊村え先キ達被罷越、近辺漁場ニて随分無由断被為挙、釣上曳上之魚肴、挙之鮑・ささへ共不残、御泊村ニ罷越居候御勘定手代并売物方役方へ可被送越候、尤入用之諸色其外各了簡ニて難被取計儀も候ハヽ、田舎被差下置候御勘定手代え可被申談候、田舎御宿々肴物之儀は、外ニ御用意難成所柄ニ付、少しも致遅々候ては極て差支可申候間、随分無由断御泊り先々え前日より被差越、御用間筈能様可被取計候

右之外一々難申達候間、何分御為宜、御用無滞様可被相心得候、以上

御勘定奉行所

縄船奉行
高山柳殿
青木藤右衛門殿

木賃賄

覚

今度御巡検使御家来衆、木賃賄被相望候付、所々ニて木賃賄仕出被仰付候付、各儀賄之方下知役被仰付候間、参人宛毎日御先キえ罷越、料理方不差支様ニ下知可被致候、賄之諸色は其村々ニて売物役より相渡候間、人数ニ応し料理方之者吟味之上、少しも余慶（ママ）無之様相請取、通帳仕立て、双方仕合印可被致候、田舎え差下置候諸品余計無之事ニ付、料理仕立少しも費無之様厳重ニ可被致下知候、以上

御勘定奉行所

田舎旅籠賄

下知役中

貴殿儀、此節御巡検使ニ付、勤方之儀は御宿札打飾り、且茶屋々々飾等之儀ニ付、左之条々為

心得相含置候事

上使之儀は御訳も違候儀ニ付、不都合之儀無之様心配可有之候

御宿札

一、上使田舎御宿札之儀、青竹ニ挟ミ建テ候先規ニ候処、寛政年は御三方様より之合印ニて相済候と相見え、此節も総て寛政年之形ニ被仰出置候付、右御宿札之儀をも相伺候処、御荷物取片付之節、不分りニ有之たると相聞候付、当節は掛札ニ心得、御宿札用意いたし置候様被仰渡候、貴殿儀上使御発駕前々日府内出立被致、右御札被持下候て、御泊り村七ヶ所ハ素り、両御昼場共御都合能可被掛置候

一、田舎御宿々拵之儀、御本陣御座廻りハ勿論、勝手廻り・御湯殿・御雪隠其外、外廻りニ至、不掃除ニ無之様可被及差図候、下宿も同断ニ候事

一、府内より御宿々え兼て差下置候品々左之通ニ候間、飾付方等可被申付置候

一、紋紙六枚、折屏風四双半

折屏風

一、同弐枚折四双半

右御本陣壱軒ニ弐枚折半双、六枚折半双之積りニして、三ヶ所分差下置候、大山村ヨリ三御泊り之分ニ相当候間、為替方之儀は御跡ヨリ御作事方手代三木田恒右衛門被差下候間、被及談置、御不都合之儀無之様心配可有之、勿論当節は夏向之事故、多分屏風之御入用も有之間敷候得共、先ツ右之通差下置候間、右三御泊りニて御不用と相見候ハヽ、夫共御飾付ニ及ヒ間敷哉、其筋役々示談之上、時宜之取計有之候事

風呂

一、御風呂壱ツ
一、御湯桶壱ツ
一、御手水桶壱ツ

湯板

一、湯板壱枚
一、大小手洗弐ツ
一、御批杓（ママ）壱本
一、貝木壱本
一、御茶水田子壱荷
一、丸行燈壱軒
一、雑巾

御朱印台

一、御朱印台壱ツ
一、御刀掛壱ツ
一、御手拭掛弐ツ
一、庭下駄参足宛　草り共ニ
一、御多葉粉盆
一、御縁敷
一、手燭

御本陣壱軒ニ如此ツ、
差下置、為替ニ不致
積りニ候事

硯箱

仮番所

御昼休

一、煙器
一、丸挑灯
一、毛氈
一、小杉紙　雑紙用
一、硯箱　筆・墨・紙共ニ
右御賄掛持下之内、御飾付ニ相拘り候分而已如此心得ニ致書載置候、其外品々持下り候事
〃台子・料紙箱・燈台は、此節被相止候付不差下候事
〃御宿前仮番所・郷番所之儀は御郡奉行所差配ニて、諸品共彼御役所へ相渡置候間、被相拘候ニ不及候事
△頭注▽「此節被相止」
〃右品々之外、御本陣・下宿共、膳・椀・木綿夜具其外御用人以下風呂桶類等、いつれも借入有之候間、其心得可有之候
〃佐須奈・鶏知御昼休ニ付、御宿々用左之通差下置候事
一、御手水桶参ツ
一、壱柄掛御刀掛参ツ
一、御手拭掛参ツ　御手拭参ツ
一、小批杓参本

雑巾

関所飾

鳥毛鑓

丸盆

一、雑巾　　右壱ヶ村ニ如斯宛差下置候

〃佐須奈御関所飾方之儀は、御関所方ヨリ御役々え御差図越ニ相成居可申候間、御都合能可被申談候事、鰐浦も同断ニ候事

〃綱御番所へ左之通差下置候

一、鳥毛鑓参本

一、参ツ道具壱通

一、木綿幕壱張

一、結柴羽織壱ツ

一、柿羽織拾う

〃畳之儀は、村方ヨリ御借上之積りニ候事

一、□交幕弐張

一、丸盆参束

一、弐間苫桐油四枚

一、毛氈五枚

一、割蓋水桶壱ツ

一、裏付呉(ママ)座拾枚

一、批杓(ママ)大小弐本

田子

一、縁取呉座参枚
一、田子壱荷
一、大薬鑵壱ツ
右茶屋壱ヶ所ニ如此宛、三ヶ所分差下置候、右之外は段々為替にして相済候先格ニ相見、当節も同様ニ候
〃七曲りは、右之品々別段差越候事
右茶屋飾付方、茶屋亭主え能々被相含候事、尤右品々為繰替は御作事手代御跡立ヨリ可差配事
一、貴殿え被相付大工小頭・番手被差下候間、諸向御都合能可被及差図候事
一、紋紙・松葉紙等用心之為少々宛持下居、若御宿々損し等出来候節、夫々取繕候様可被相心得候事
一、御宿札打用、且御本陣御蚊帳釣手用、其外御本陣御玄関え幕掛用之打釘等被持下、御都合能可被及差図候事
但、被相付候大工小頭え釘類見計為持下候事
右之条々、大意相含置候、筋々より御役々も差下候事ニ付被及示談、御用便宜可被相勤候、
以上
閏四月　　御勘定奉行所

田舎御付廻り

各儀、御巡検使田舎御付廻り御賄掛被仰付候、随分念入可被相勤候

売物役

一、御休泊毎ニ町ヨリ売物役として、壱村ニ両人宛申付被置、御賄用之諸品其外、売物付飯用之品々ニ至相渡置、専ら右之面々引請、相勤候儀ニて、御算用をも差立候事ニ有之候得共、別段各持下之品々、若売物方不足品も候節之為手当、被持下候儀ニ有之候得は、御不都合之儀無之様、可被相心得候、尤売物役之儀、町役之儀ニは有之候得共、御取賄方用売物ニ至、此御役所差配ニて勤方大意書付をも相渡置候儀ニ有之、町役之儀、右之通引請、相勤候儀ニは有之候得共、全体右様之儀不馴之儀ニて、差支御不都合之儀等有之候ては余事と違、上使之儀は訳も違事、品により、上、御首尾合ニも相拘り候段、不安儀ニ候得は、各儀是迄始終被取扱、諸向心得前之儀ニ付、御勝手方ニ相預り候筋々之儀は、無遠慮申談、諸事麁略之儀無之様心得方被加諭達、御用便宜可被相勤候

御首尾合

一、御巡検使御一行献立帳、兼て相心得被置、魚類・野菜ニ至り御泊り村々え取揃え方無油断、縄船方且御郡御役々被申談、御都合能心配可有之候、素り売物之方・御料理方之儀、下目付被相付置候儀ニは候得共、献立帳之様子ニより、不相当之品々被見請候品、渡方申聞候ハヽ、吟味被差詰不締之儀無之様可被相勤候

献立帳

一、御朱印台・御刀掛其外御座廻り飾付之品々、先規之通各持下り之儀ニ有之、御座飾りとして御作事掛御先へ被差下候儀ニ付、御宿亭主共一同被申談、不都合無之様心配可有之候

御刀掛

一、所々水茶屋亭主之儀、各心得之通品々被相渡、餅・飴其外売物ニ出候儀ニ付、諸向御不都

酒

合之儀無之様被申達、御用便宜可相勤候

一、各壱組え下代弐人ツヽ被相付候、斯ル御重用之儀故、田舎之儀は売物役・水茶屋亭主ニ至、口々立別、御泊村々少人数罷有候儀故、差別不被致被及差図、御不都合ニ不相成様、御用便宜相勤候様可相達候

一、各被持下候酒之儀、上使を初彼方御家中衆以下、被相調候節は、売物方へ被相渡、御定直段之通を以て可被売渡候、尤此方御役々以下、調方申聞候向も候時、たとへ病用たり共一切売可被差留候、持下之酒も少く、若御用欠ニ至り候時ハ不安、此段及達置候

右之通大意相達候、勘定手代内山繁左衛門御付廻り被差下候事ゆへ、申談、御用便宜可被相勤候、以上

閏四月　　御勘定奉行所

原田宇右衛門殿

井常右衛門殿

川本茂十郎殿

田口甚七郎殿

波多野新左衛門殿

大宮吉左衛門殿

田舎御普請

御作事方へ被相付候御勘定手代笹葉孫右衛門田舎御普請方へ被差下候付相渡候口達書左之通

寛政年ニは御作事頭御勘定手代被差下、御宿普請見分被仰付、普請方は郷方え為御任ニ相成候例を以、最前被差下候処、此節は御火急之御取設ニ付、上より之御普請被仰付候得は、見分役をも被差下候御主意之儀ニ付、諸般御作事方出役之通被相心得、受払之諸帳面ハ素り、郷方へ被差出候書付等ニも証印可有之候、村方ニヨリ御合力申上、郷大工を以自分ヨリ普請取計御用立候向、又は上之手を以御普請被仰付、其御人料(ママ)を自分より可差出心得之向も有之度、其内上より之御普請ニ相成候場所も格別手入も薄く相見候村方は依談、板木・釘類・大工手間等見積を以郷大工え渡、普請ニ被取計候て、他村え被取掛候儀等も其場之振ニ被懸、兎角御普請方果敢取(はかとり)、成丈少ニても御出方相減し候処之駈引差配可有之候、且又大工中其外ニ至、夜分村方等ニて酒宴・乱雑之儀等有之候てハいかゝ敷、品ニより手入之儀等相生候ては、御用之妨ニ相成候事ニ候得は、兼役ニ付ては尚又右之及諭達可有之、尤御作事方へも厳達可致置候事

木材

一、木材急納方之儀は、猶御郡奉行所よりも達越ニ相成候様、役談取計置可申候得とも、御関所下着之上早速最前之村々木材急納方催促被差出置、道繰宜被差配、送人馬等成丈ケ八重ニ不相成様ニ村役人えも可被致懇談候、併木材不揃村方も有之、相揃候迄安閑と相待可被居様も無之、其節は仮令道法費ニ相成候迚も、木材相揃候村方ヨリ段々取掛り候段勿論ニて、最早時月も迫り候事故、少も大工遣等間日無之様被差配度、第一之儀ニて其余は持所位を以、御用便筋懇達可有之候

人夫

一、人夫召仕高日々証印被致候儀勿論、其内ニは家主ヨリ大工・郷夫とも賃銀・飯米差出候儀願出居り候も有之、又自分ヨリ可承と申出居候分、扨又人夫如何程御渡被下候ハヽ、木品其外入用之品々自分可承段申出居候口も有之事故、何れも申出書面被写取被持下、少しニても御益ニ相成候様、可被致懇談候

但、一点見分積相済居候上ニ、家主等ヨリ爰はケ様ニもと願出候向有之間敷ニも無之、右等之分は自分ヨリ之普請勿論ニ候事

大工

一、大工賃銀・飯米之儀は、近例之通可被相心得置候

一、御普請積帳前之内、家主ヨリ御合力申上候分は、成丈ヶ現銭を以被取立、府内大工賃銀は勿論、其外共入用之銀、府内より差下候ては、海陸之間心遣ニも相成候事故、村方気服（ママ）能被及懇談、成丈ヶ現銭被取立、請払を致候様可被相心得候、積帳出越之分共候ハヽ、委細家主へ被申諭可被取立儀ニ付、積前より減縮いたし候分ハ、現御入料高を以可被取立候、尤府内大工、田舎共現被召仕候賃銀、則御入料ニ相成候事故、府内・田舎とも大工・人夫ニ至、現被召仕候賃銀・飯米を以可被取立候

府内大工

一、被差下候府内大工賃銀、日数参拾日分ツヽ貸渡ニ相成、余は見積を以可被貸渡分ハ、家主御合力銀取立候分有之候ハヽ、可被取遣候、其外飯米之儀は、被申越次第可差下候、併田舎ニて飯米償之道も付候て、留守々々へ御渡被下候様相成候得は、差下方之心遣も無之候得は、是亦下村之上、時所位を以御用便宜可被取計候

米壱俵　九銭六拾匁
白米壱俵　同八拾五匁
右直段を以可被取立候

障子・襖

一、御普請積前を以御郡注文之品過(過剰)上ニ相成候ハヽ、被申出候通相望候人も候ハヽ、三割を不引候て可被売渡候、取遣方之儀是又承り届置候

一、御宿々障子・襖張、壁等之儀は、府内麩細工被差下候儀勿論ニ候得共、田舎向之儀ニ付、村々ニて仮成麩細工相心得居候者も候ハヽ、紙類・糊等積前を以御渡可被下候間、成丈ヶは自分ニて差償候様可被申談候、素村毎相心得候もの無之候ハヽ、隣村より相雇候様懇達有之度、夫共麩細工相心得候者無之村方ハ、追々被書留置、此方へ被申越候ハヽ、御間筈能張立ニ相成候運ニ府内ヨリ可差下候

一、襖縁・引手等之儀も、是又同様於田舎取調相成候得は、別段大工被差下候ニ不及、御便用之事ニ候、其儀不相届候ハヽ、成就之上大工を以態々可被差下外無之候事

御借上器物

貴殿儀、此節御巡検使ニ付、郷々より御借上之諸品吟味として御郡手代同前被差下候間、左之条々相達候

一、郷々ヨリ御借上器物之儀、上使之分は府内より持下りニ相成居候と相見候付、此節も持下之積ニ候間、御用人衆以下之分御借上ニ相成り、寛政年之節は一ト御泊り百人前ツヽ、御借入

貸上帳

之内、四拾人前は御家中衆上之分、同六十人前は中間等下モ部之分ニ相当り、此節は、未タ御人数も不相極候事故、総て弐拾人前を見込、百弐拾人之見積りニいたし置候間、右之内五拾人前を侍衆之分ニ当、七拾人前を中間以下下も部之分ニ当、品位可及吟味候事

但、縁金等ニ不及候事

一、右之外、上使御付廻り之御役々以下多人数と相見候得は、是又器物類上中下御入用も可有之、素り此方御役々は御内々之事故、可相成丈ヶは麁品ニても可相済事ニ候得共、下村之御郡手代被及御役談、膳・椀等之類成丈相増候様被及諭達度候事

但、右之通御入用ニ候得は、日用之外余分も有之、仮成ニ相見候品ハ御郡手代示談之上、御用立候様被及諭達度、凡之数相極り候得ハ、御安心之事ニ候

一、此節、御巡検使ニ付、郷々ヨリ御貸上之器物写六冊、且寛政年同断之節御賄頭中嶋右門より差出居候器物取調帳被持下、右を土台ニして取調候様可被相心得候

一、右貸上帳六冊之内、七御泊りニ仕分ヶ候得は、過上之品も有之又不足之品も候事故、余分之品は他郷え差廻、不足は他郷より兼て差廻置候様、先ン繰り送りニ取廻候ハ、、便用ニも可相成哉、是等何れ下村之上、得と御郡手代被及懇談度、見越之事ニ付、委細ニ一々難及差図候間、可然心配可有之、尚御郡奉行所可及談と評義(議)罷有候、其余不足之分は、此節上方注文取計置候、且又器物入混撰糺難届勝共ニて、御貸上之主致迷惑候ても不相済候付、持合之面々差出候品ニ不見苦様自分々々印ニ而も付ケ置候ハ、、御用済之上替り候儀も有之間鋪候

水風呂

間、其段相含可被置候、猶用便之道可被取計候

一、此節桶類多数御出来ニ不相成して難叶相見候内、水風呂・水据桶之儀、貴殿心得之通大造之品ニて田舎之分ハ郷々ヨリ御貸上も有之候得共、いつれも不足ニ有之、夫ニ付水据桶之儀は、一ト御泊り御本陣壱軒ニ壱ツ宛、用水と相見候得は御貸上申出候外ニ、古賀(ママ)等之類持合之向は有之間敷哉、其外水風呂之儀も下部之分は仮成ニも候ハヽ、持合之品ニても可宜哉と存候、御泊り村々ニて御郡手代示談之上被及懇達、成丈ケ御貸上之数相増候様心配可被致候

一、御借上之品々は、追ていつれも損料御渡被下候事故、其段相含可被置候、且又夜具類之儀、御貸上申出候分は、相応ニ可有之候処、前条ニも相達候通、郷々不足を引合ニして、いまた不相揃候付申出候様、見苦敷候分も候て、洗濯ニても致シ候得は、御用立候品持合之向可有之も難計候事故、是又御郡手代被及示談、成丈ケ御貸上仕候様懇達被致度、洗濯自分ニて難相届向は、相当洗濯賃御渡可被下候事

但、洗濯賃御渡之分は、損料御渡可被下様無之候事

畳替

一、田舎御泊り々々、御本陣は素り下宿ニ至、畳替不被取計して難叶候付、先般御普請ン(ママ)見分之節及吟味候処、何れも床之分は宜候と相聞候付、家居御普請済、畳屋差下、表替之積ニ候処、貴殿折柄下村之事故、表縁糸差手間等差下候て、村請持之示談は相届間敷哉、御郡手代下村之事故被申談、郷役人ニても相請持候様相成候得は、一方ニても御安心之事ニ候付心配可有之候、尤御本陣本座之分ハ六匁表ニして、次之間より以下下宿共四匁表ニて取替之積ニ

桶類

候、其外勝手廻りハ在り来板敷之侭ニて相済候積りニ候

一、此節御借上桶類ニて不足之分は、新規出来可被取計、上使用は素り其外下部ニ至、府内ニて御入用之分は、府内ニて御出来ニ相成候段勿論ニ候処、田舎御入用並之分、是又不足之分ハ、府内御出来之積りニ候へ共、貴殿此節下村之事故、可成丈は御借上ニ致度、新規御出来並之分は、御郡手代被及示談、御泊り村々ニては、郷桶屋之手を以造立候ハヽ、杉・檜持登り之運送ハ素、桶類差下方ニ至候ても御用便之事ニ有之、素り郷桶屋平生不手馴之品も候ハヽ、府内ヨリ見本差下為出来候ても可然哉、是等は尚見計も可有之事ニ候、兎角郷役人引請差配不致しては御間筈之程も不安候間、当年一盃と申ものゝ、十二月中頃迄ニ出来揚（ママ）り候得は御安心之事故、其段相含ミ心配可被致候、是等下村之御郡手代別て差配無之しては精々果敢取（はかとり）兼可申候間、何事も御用便宜敷可被及役談候

但、右之示談相届候得は、相当之積を以杉・檜伐出居候ハヽ、追て貴殿上府之上、注文可取計候、且又賃銀・飯米等之儀ハ工数（ママ）之積り為致相極メ被置候ハヽ、出来之上、御渡可被下候事

右之趣、御郡奉行所御役談之上相達候間、猶下村之御郡手代被及示談、斯ル御時勢之事故、諸般御用便宜可被相勤候、以上

九月　　御勘定奉行所

川本茂十郎殿

博多

筑前様

木賃賄

御示談書

今度御巡検使ニ付、博多え被召仕、就夫諸色直段八百屋・魚屋直段等何れも大坂近国御聞合之上、相極候儀と相見候付、先達て大坂えも問合申越候様申越候、此節別帳三冊御渡申置候間、筑前様御振り御聞合、別帳ニ直段付ケ成丈ケ早便ヨリ被送越可被下候、相達候上、此元ニて数冊相仕立、府内・田舎共御役々御渡し被成候儀と相見候得は、無御油断御心得被下度奉存候

一、此節上使御あいしらい方、諸般寛政年之形ニ被仰付置、随ては諸向共寛政年之形を目度（ママ）ニして御差図を請、手配罷有候、御取設方之儀は追々御見分も可有之、事毎差分、及御談候訳も無之候得共、御困之御取設と彼方様御振等御考合有之、品ニより格別厚薄等御座候ても如何敷儀候付、諸向共御含置被下、此御役所へ相拘候筋等之儀は、無御遠慮御談越被下度存候

右之趣御談し申置候、御用便宜御心配希申候、以上

四月　　藤正左衛門

吉村儀右衛門

川邊一角様

当節御巡検使御取設方、諸般寛政年之形ニ被仰出置、御賄方之儀も木賃賄ニ被仰出、夫ニ付諸国共木賃賄ニ可有之哉、近年米穀諸色共一体ニ直段引上ケ、随ては旅籠等も相応割増ニ相成居

木賃賄

候事ニ相聞、此節木賃賄と被仰達候儀ニハ有之候得共、実は旅籠同様之儀ニて、寛政年は左之通之直段ニ御極メ被置候処、此節諸国とも時体之変化ニより、割増等ニ相成候訳ニハ有之間敷哉、御考合、早々御申越被下度及御談候事

一、銭拾弐文　魚菜代
一、同六文　木賃
一、同拾七文　米代
〆　参拾五文

木賃米

掛紙ニして

此木賃米代上・次之分而已相見へ居候を以は、侍中以下共同様之訳ニ可有之と相見候へ共、上使・侍中・下部三段ニ相分候事共ニては有之間敷哉、夫をも御考合之事

魚菜代

御朝夕

合銭七拾文　上使之分
一、銭八文　魚菜代
一、同六文　木賃
一、同拾七文　米代
〆　参拾壱文

朝夕

御弁当

合銭六拾弐文　御次之分

御弁当

一、銭拾弐文　上御壱人分

内六文　木賃

同六文　茶代

一、九文　次之分

内六文　木賃

同参文　茶代

一、白米壱人前弐合五勺ツ、　上・次共ニ

但壱升ニ付六拾八匁宛ニして

右、寛政年隣国御聞合御極直段如斯

人々賃銀

一、人々賃銀軽尻ニ至り、隣国之振合御問合ニ相成来候儀と相見候間、是又御聞合被成、早便御申越可被下候事

右之通及御談候、御間筈能御申越可被下候、以上

四月　藤正左衛門

吉村儀右衛門

川邊一角様

御作事方

御作事方

〃箕　四拾弐

但、御用人衆駕籠舁夫着用之分、御作事方ニて郷番手ニ為出来、壱ツニ付九銭弐匁六分宛

賃銀

〃木綿幕　拾張　　器物方ヨリ貸込

但、悉皆解除ケ洗濯引両色上ケ、仕立揚迄、壱張ニ付九銭六匁宛ニして

木綿幕

一、木綿幕拾壱張　右同所之品

但、損シ繕、洗濯賃銀御定式之通賃銀ニして

一、木綿壱疋

右幕弐拾壱張繕用

右御作事方ニて修補取計候事

御旅館

口上手控

御巡検使御府内御旅館御普請積、別帳之通差出申候、夫ニ付御旅館外ニ道橋且御見掛之場所々御普請被取行候哉ニ伝承仕、右ニ付御作事方心付之口々、左ニ書載申上候、不用之儀は、御省被下度奉存候、尤其外御先形被成筈之儀、御作事方へ相預り候口々は、御達被下度奉存候、

以上

馬場筋

酉八月　　御作事方

御勘定奉行所

覚

一、馬場筋通橋々欄干、余程損し相見、何れも新規御仕替可被成候哉、又は繕ニて御済可被成候哉、且又上使御通と申刻は、赤土敷入置候様可仕候哉、御尋申上候

此役所掛紙

馬場筋通橋々見分仕候処、いつれも損し相見申候間、新規仕替、且繕等可仕奉存候、且又御通駕之節赤土敷入候儀は、如何可被仰付哉、御通場所置土不仕儀ニ御座候ハヽ、同様可被仰付御事と奉存候、何れ共御差図可被成下候事

〈頭注〉「御付紙　付札ニて被申出候通可被取計候、置土之儀は追て可相達候」

一、馬場筋通町切番所町切共、御巡検使御滞留中、御取除可被置儀ニ御座候哉、御設被置候儀ニ候ハヽ、只今在姿之番所町切柱駒寄ニ至見苦敷く相見、新規御建替可被成候哉、心付御尋申上候事

此役所付紙

町切之儀御〆り之儀故、只今之侭ニして、見苦敷無之様取繕、番所駒寄として取繕候て、御設被置如何可有之哉

馬場筋

一、馬場筋通、上ヨリ掃除被成筈之所々掃除は素り、小石堀貫左右堀々溜土ニて地並取計可申候哉、且又勢溜之所、是迄之通薙草ニて相済、草除見場能取計置、可然儀ニ御座候哉御尋申上候事

此役所付紙

申出之通相達可申と奉存候

〈頭注〉「御付紙　二ヶ条付札之通可被相心得候」

青柴垣

一、馬場筋通小路々々杭竹かつら結ニして、青柴垣之喰違出来候哉ニ相聞、右之通取計可申候哉、御尋申上候事

此役所付紙

馬場筋通小路々々青柴垣之儀、留書ニ聢と相見不申候得共、先々之形と相見申候間、申出之通出来候様可被仰付候哉、御差図可被成下候

〈頭注〉「御付紙　申出之通青柴垣喰違其外ニ至り、出来候様可被取計候、尤町切ニ不差障様見掛能可出来候、且小学橋西手、宮谷橋南手、板壁喰違ヒ御有合を以相済候様可被相心得候」

一、打廻御番所前通庇本瓦葺之分、至て損し相見、瓦行列も相乱居、兼て屋根修理仕、葺替不申候ては、追年大成御手入と見分仕居、此節瓦土卸シ、屋根地繕、瓦葺替置候ハヽ、御見掛も宜相成、跡為と評議仕候間申上見候、御評議被下度奉存候

土手

白土壁

八幡宮

練塀

此役所付紙

打廻御番所之儀見分仕候処、格別之損しも相見え不申候付、屋根廻繕イ瓦列能置直し、其外
椽板損し等取繕候様相達置候様可仕候

一、右同断、表通南手ニ取設有之候土手至て見苦敷、御番所前通堀土堀さらへ候分ニて、土手
草取候上を化粧土敷ならし置候仕形可宜奉存候、評議被下度奉存候

此役所付紙

打廻御番所南手土手之儀、念入雑草ニして御済被成候事ニ奉存候事

一、右同所構練塀石垣大町通より見掛之処、白土壁繕可申哉、御尋申上候事

此役所付紙

申出之通相達候様可仕候

〈頭注〉「御付紙　三ヶ条付札之通可被取計候」

一、八幡宮御構馬場筋通練塀至て古損、瓦不足、又ハ相乱居、右練塀下地繕ヒ鼠灰上塗仕替、
瓦繕葺可仕候哉、御尋ね申上候事

此役所付紙

八幡宮前通練塀之儀、見分仕候処、元卜信使之節引両ニ致有之候を、黒染ニして是迄相済居
候処、いつれも墨流落、見苦敷相成居申候間、此節只今之侭墨にて染候得は、御手入も薄ク
奉存候間此段申上候、何れ共御差図可被成下候、屋根繕勿論ニ奉存候

御馬見所

〈頭注〉「御付紙　下タ地取繕、黒染ニして見掛能可被取計候」

一、御屋鋪御構・御陳道具御蔵・御広間とも、西手通草難取計、練塀損、白土繕い塗、瓦落繕葺仕可仕候哉、御尋申上候事

此役所付紙

申出之場所々々見分仕候処、何れも損し相見申候間、右繕候様可仕奉存候

番所

〈頭注〉「御付紙　付札之通可被取計候」

一、御馬見所上手、坂本孫右衛門住居大河次へ通り候入口、杭竹から結青柴垣喰違い可仕候哉、御尋申上候事

此役所付紙

申出之通可被仰付候哉

〈頭注〉「御付紙　馬場筋通同様可被取計候」

一、砥石渕町切番所、且町切柱駒寄等之儀、番所之儀は空住居之者へ申付、不見苦様為繕、御巡検使御通行之節ハ戸〆可申付候処、町切柱駒寄等一列ニ見場宜敷出来替可申候哉、御尋申上候事

此役所付紙

申出之通可被仰付候哉、右之場所町切は、通行場所手狭ニ御座候間、川之方柱を壱尺余建広、御通行之障りニ不相成様可仕と奉存

御家中住居

空家敷

土橋

飛渡石

〈頭注〉「御付紙　付札之通可被取計候」

一、砥石渕道筋、御家中住居仕筈之前通、掃除方は自分々々夫々掃除方其筋御達ニ可出儀と奉存候処、上ヨリ被成筈之所々道作掃除可仕候哉、御尋申上候事

此御役所付紙

此壱ヶ条別紙を以御伺申上候事

一、砥石渕北手、道狭きがけ之所杭竹ニてかつら結埒チ出来可申候哉、御尋申上候事

一、砥石渕通屋鋪抜道又は空家敷前通も候ハヽ、杭竹ニて青柴垣可仕候哉、御尋申上候事

此役所付紙

二ヶ条申出之通被仰付度奉存

〈頭注〉「御付紙　二ヶ条不見苦様可被取計候」

一、砥石渕土橋之儀、土台木悪敷候ハヽ取替、土橋を仕替、左右之儀是迄之通丸太置ニても可宜候哉、埒チニても結候様可仕候哉、御差図被下度奉存候

此役所付紙

土橋之儀、両脇へ丸太ニても置添へ、土等入足し相済可申候哉、手広く橋ニも無御座候間、らちニても結候様可仕候哉、御差図可被成下候事

〈頭注〉「御付紙　橋幅を広メ両脇へは丈夫成丸太を置添可被取計候」

一、砥石渕平田宅磨前、七曲え御通り之川渡、飛渡石、川石を集メ丈夫ニ飛渡出来置、可然儀

ニ御座候哉、又は新タニ土橋ニても掛可申候哉、御尋申上候事

此役所付紙

平田宅磨前七曲りえ之川渡之儀、前々ヨリ土橋を掛候義と相聞申候間、土橋可被仰付候哉

〈頭注〉「御付紙　其比ニ相成り土橋出来候様可被取計候」

一、砥石渕平田宅磨住居脇手、佐頭道入口杭竹かつら結、青柴垣喰違出来可申候哉、御尋申上候事

此役所付紙

申出之通被仰付度奉存

〈頭注〉「御付紙　申出之通可被取計候」

浜御番所

一、御使者家前浜御番所之儀、両官壁白土塗、且屋根地も棟下左右南手之分古損居、敏ヨリ修理方可申上評議も仕居候処、御時体も有之、差掛口々之御普請ニて差置候処、御見掛之場所と申、殊ニ上使御旅館近辺旁ニ付、此節両官壁仕替、屋根修理仕置候ハヽ、御見掛も宜敷、追て御多入も相生間敷申上見候、御評議次第と奉存候、且又濡縁殊外古損居、御仕替可被成候哉、御差図被下度奉存候

此役所付紙

御使者家前御番所之儀、御普請所見分仕候処、両官壁白土先繕ニして、其外所々損し相見、御見掛之場所ニ付、不見苦様取繕方差図仕候様可仕候

浜御制札場

〈頭注〉「御付紙　付札之通可被取計候」

一、浜一体御使者屋前ヨリやらい際迄、掃除仕揚候は勿論と奉存候、夫ニ付久田道ヨリ落候水抜き之堀、蓋石殊外悪敷出入等も有之、不足も致居候間、在石を列能置直し、蓋石四五枚仕替、堀浚際能く取計候て如何可有之候哉申上見候、御差図被下度奉存候

此役所付紙

申出之通相達候様可仕候

〈頭注〉「御付紙　申出之通可被取計候」

一、久田道え抜候御蔵々小路杭竹かつら結ニして、上使御滞留中仕切可申候哉御尋申上候事

此役所付紙

是迄在来之町切を不見苦様取繕候て御済被成、如何可有御座候哉

〈頭注〉「御付紙　付紙之通可被取計候」

一、浜御蔵々間々駒寄、是迄は道木杭等にて追々繕置候処、此節道木杭歟、杉丸太ニて見場能仕替可申哉御尋申上候事

一、浜御制札場前通、地石乱繕、屋根繕、脇手練塀凡壱間計損候分手塗繕、白土掛ケ取計度評議仕候、御差図被下度奉存候

此役所付紙

二ヶ条申出之通相達候様可仕候

梯子

漂民屋

窮民家

〈頭注〉「御付紙　二ヶ条申出之通可被取計候」

一、上使御揚陸は梯子ニても掛候儀ニ御座候哉、又は潮合御見合御上り、雁木ヨリ御揚陸可被成候哉、右体は御船奉行所差配ニて、御作事方へ不相関儀ニ候哉、後証相控置度御吟味之上、御差図被下度奉存候

此役所付紙

御揚陸之節、梯子之儀留書ニハ相見へ不申候得共、御設可被成候事共ニ可有之哉と奉存候、右は専ら御船奉行所差配之儀と相見申候間、彼御役所御役談御用便宜取計可申と奉存候

〈頭注〉「御付紙　梯子掛候義勿論ニ付、御船奉行所可被申談候」

一、外やらい草取掃除取計可申、若シ御揚陸用御梯子共仕掛候儀ニ候ハヽ、やらい砂利目摺等取計可申候哉、御差図被下度奉存候

一、中やらい高草之分草薙為取計可申候哉、御差図被下度奉存

此役所付紙

二ヶ条申出之通取計可申候、然処外やらい御揚陸可被成場所大分損し相見申候間、御普請取計可申と奉存候

一、漂民屋之儀、掛隔り候場所なから、朝鮮人を被召置場所故、屋根廻り是迄在来之通漆喰飾取計、遠掛見場宜取計置不申候共、宜敷儀御座候哉御伺申上候

一、窮民家御取繕不被成候とも宜儀ニ御座候哉、御尋申上候事

漆喰

俵物方

南岳院

此役所付紙

二ヶ条漂民家・窮民家之儀、見分之上、各別見苦敷所も御座候付、取繕各別見苦敷無之様、仮成ニ付御取繕被置候て御済可被成候哉、御差図可被成候

△頭注▽「御付紙　四ヶ条付札之通可被取計候」

一、船御改所出御運上方屋根廻、浜先ニて屋根漆喰棟包軒通取計有之候処、近来当時々々屋根繕ニて相済居、此節漆喰掛被置候ハヽ、瓦落等も仕間敷、遠掛御見掛宜御座候間、申上見候事

此役所付紙

三ヶ条御作事方申出之通可被仰付候哉

△頭注▽「御付紙　三ヶ条申出之通可被取計候」

一、俵物方土蔵前通、大庇屋根桟瓦葺之所前通、多分瓦無之、此節瓦卸シ諸方御人用（ママ）ニ取遣跡部葺之侭ニして御済被置、如何可有之候哉御伺申上候事

一、南岳院前通掃除仕揚候は勿論ニて、同所下タ手〆切、町切、上使御滞留中夜分、下宿御通行之御使も可有之、取除被置如何可有之候哉御伺申上候事

一、主藤文左衛門住居前、奥里入口之杭竹青柴垣喰違出来可申候哉御尋申上候事

此役所付紙

二ヶ条御作事方申出之通可被仰付候哉

御米蔵

宴席門石橋

黒門

御馬屋

〈頭注〉「御付紙　二ヶ条申出之通可被取計候」

一、御米蔵東蔵外構腰壁駒寄出来置候処、破損之侭尓今出来不申、上使ニ付御通場ニて相成歟、駒寄出来可申候哉御尋申上候事

此役所付紙

御米蔵東蔵見分仕候処、損し有之候付取繕、駒寄出来候様可仕と奉存候

一、宴席門石橋土大ニ減し、土台之石を顕居、土敷込候様可仕候哉御尋申上候事

此役所付紙

各別見苦敷無之様取繕置候様仕度奉存候

一、黒門内川渕練塀、追々瓦紛失ニ及、練塀損之侭ニして、瓦不足之侭打置候処、一体新規仕替候様可仕候哉御尋申上候事

此役所付紙

黒門内練塀之儀、見分仕候処、所々損相見申候間、御場所柄も違候事故、取繕置候様仕度奉存候事

一、御馬屋石垣通なら石乱、繕可申候哉御尋申上候事

一、御馬屋馬場入口内手、見張之駒寄共損しハ繕、大破は仕替可申候哉御尋申上候事

此役所付紙

二ヶ条各別見苦敷場所而已取繕候様仕度奉存候

東照宮

一、金石御城御構塀廻白土・瓦損し等は御見掛宜繕可申候哉、御尋申上候事
一、東照宮・万松院・御霊屋等見張之所々損し繕可仕候哉、御尋申上候事
此役所付紙
二ヶ条御場所々々取繕方如何可被仰付候哉、尤下馬札建居候前通は、此節塀廻り取繕候積ニ
御座候
〈頭注〉「御付紙　七ヶ条、付札之通可被取計候」
一、延享二乙丑年、宝暦十庚辰年両度之上使ニ付、府内御旅宿御普請積帳吟味出申候処、左之
口々御取設積有之、相分兼申候付申上候、御先方も候ハヽ、御差図被下度奉存候
〃久田道打上坂之上、高瀬外記掛屋鋪ニ弐畳敷堀建、縄結木家（小屋）出来有之候事
但、其御入用相分不申候事
此役所付紙
先々之通小屋掛出来候様可仕候
〈頭注〉「御付紙　先規之通可被取計候」
〃久田村延命寺大修理取計有之候事
〈頭注〉「御付紙　延命寺修理ニ不及候」
〃久田村ニて見セ家御取設有之候事
但、百姓屋と相見、少之張出有之候事

久田道

風呂屋

〃久田村風呂屋出来有之候事
　但、百姓屋と相見え、其家ニ弐間程押出、出来有之候事
〃久田村御船江表門出来替、同所番所修理致し有之候事
此役所付紙
　久田村口々御普請之儀は、頃日見分之趣積帳をも差上置候付、別て不申上候
〈頭注〉「御付紙　三ヶ条積帳を以申出之通可被取計候」
〃久田道打上坂之下タヨリ先キ道作いたし、土橋拵、其外掛屋敷・垣等出来有之候事、但打上ヨリ先キ道作りは、以前は相心得不申候得共、只今は郷方之手より夫々仕候事
此役所付紙
　打上ヨリ先道、普請之儀は御郡奉行所へ御差図可被成下候哉
〈頭注〉「御付紙　御郡奉行所へ可及差図候」
〃久田村御上場所壱間ニ八間程、浜より掛出し出来、潮満チ御揚用と相見候事

延命寺

〃延命寺下タ手ヨリまんちう瀬方へ、御船より御上り場所拾間ニ横壱間ニして、潮干御揚用わく二ツ入道拵いたし有之候事
此役所付紙
　二ヶ条伺之通可被仰付候哉
〈頭注〉「御付紙　二ヶ条、申出之通可被取計候」

一、御使者家之儀、壱番御本陣ニ相成候処、郡納之材木類、只今之場所不取散様積ミ立置候分ハ差支申間敷候哉、御伺申上候事

此役所付紙

御使者家前通材木不取散、御作事小屋前通え取方付置候ても可然御座候哉

〈頭注〉「御付紙　見掛ケ能積立候分不苦候」

一、上使御滞留中、御本陣門前通掃除方ハ、御使者家之儀は、同所番人脇住居は為仕候共、当り前ニて、毎朝表門前通、箒を為入可申候処、其外二ヶ所、御本陣門前掃除方、御作事方出夫ニて毎朝箒を為入候様可仕候哉、夫ニ及申間鋪候哉御伺申上候事

此役所付紙

御使者家門前通りは勿論、其外共ニ出夫を以掃除為仕度奉存候事

一、御本陣御備駕籠部屋、腰掛仮繋鑓建等之御取設ニ及不申候哉、其外御作事方へ相預り出来候先形も候ハヽ、御差図被下度奉存候

此役所付紙

駕籠部屋腰掛仮繋等は、先形吟味之上取設方相達置申候

一、御本陣且下宿共、水之手御備無之候て不叶様評議仕候、請持ニても被仰付候儀ニ候哉、又は御作事差配ニ御座候哉、御伺申上候、尤南岳院之儀、此前寛政年之節は、勝手水筈ニ以酊庵上ワ手水元より竹樋ニて水を取候哉ニ伝承仕候、此節も左様取計可申候哉、水之手差配方

駕籠部屋

御伺申上候事

此役所付紙

御本陣且下宿共水之御備、御作事方請持ニして、其余申出之通被仰付如何可有之候哉

一、大水桶（樋カ）　壱本　　御在合輪替ニして

一、張手甫五ツ　　御有合不行届候ハヽ、箱釣瓶小く出来候事

一、ちやせん三本計

右之通御本陣計焼防道具相備へ不申候共、宜敷御座候哉、御伺申上候事

一、打廻御番所へ鉄砲掛・弓靭甫掛台差廻不申候共、宜儀ニ御座候哉、御伺申上候事

此役所付紙

先例之通差回候様可仕候事

〈頭注〉「御付紙　七ヶ条、付札之通可被取計候」

一、一之御門御番所、右同断御伺申上候事

但し、同所之儀入申間敷歟共相心得候へ共、自然上使御使者ニても可有之儀共哉と奉存候間、御伺申上見候事

ちやせん

一之御門

此役所付紙

一之御門御番所御取飾ニ不及御事と奉存候

〈頭注〉「御付紙　御取飾ニ不及候」

浜御番所

一、浜御番所之儀、小船番所と御唱と相聞、御番詰ニても可被仰付儀ニ御座候哉、左候時は、弓・鉄砲掛差廻可申候哉、御伺申上候事

此役所付紙

先例之通差廻候様可仕候事

〈頭注〉「御付紙　付紙之通可被相心得候」

右之条々御伺申上候間、御入用之儀、不用之儀、御差分御達被下度奉存候、以上

府内

此節御巡検使ニ付、府内御通駕之場所々々見分仕候趣、左之通奉伺之候、早々御治定之御差図被仰出被下度奉希候

一、馬場筋通り住居之面々、門、其外構へ、塀廻り、堀渕等損し相見申候、不見苦候様取繕方御触達被成下度奉存候事

但、自分々々構廻り掃除方勿論ニ奉存候事

黒門扉

一、黒門扉は、御巡検使御逗留中、夜分ハメり切同様可仕候哉、其外宴席門、御厩御門等も同様可被仰付候哉、御差図可被成下候事

御米蔵

一、御米蔵と松山卯右衛門前と違駒寄出来之事

一、右駒寄之内、御米蔵之方ニ寄セ御番所之事

一、宮之内、天神宮社之辺ニ番所之事

万松院

一、万松院さへ宮山えは山役数人被仰付、有明山ヨリ下り掛、御城内え行掛不申様被仰付度候事

一、梅本ヨリ天道山え入候場所、見分之上、垣ニて仕切候事

右五ヶ条御屋形内御用心之為、寛政年は御取設被成候儀と相見申候、此節も右之通手当仕可申候哉

砥石渕

一、砥石渕広道之儀、近年手寄住居之御家中拝借地ニ被仰付置候、付てはいつれも杉木を植込、構出来居候、以前無之事故、此節いつれも道通之分は、御取揚可被成候哉、御通行ニ不差支丈之道幅は御座候事故、植込之杉之分成丈詰メ付候て、只今之侭拝借可被仰付置候哉

一、砥石渕土橋ヨリ上ミ、平田宅磨前通迄、いつれも道中カニ樹木枝差掛り居、御通行之障りニも相成可申と相見申候間、道脇ニ有之候木は、御作事方ヨリ枝をおろし候様可仕候間、自分構内より出居候枝を屋敷々々伐除候様御達被下、猶取除方等之儀は、御作事方ヨリ及示談候様可仕候間、応其意候様御達置被下度奉存候

一、砥石渕之儀、総て地行悪敷、別て道祖神手前土橋辺より平田宅磨屋敷外レ辺迄、凡百拾間程之間、格別荒果候間、御手入不被成して難叶、所ニより至て道幅狭所も有之候付、成丈ケ地行能道幅等も広マり候様仕度御座候、然処大分人夫不召仕候て相済間敷御座候付、其筋積書相達置申候間、追て取調御伺申上候様可仕と奉存候

右之趣奉伺之候、御治定之御差図被仰出被下度奉頼候、以上

酉九月　　御勘定奉行所

先御駕籠

御巡検使御駕籠夫、只今ヨリ当時番手ニ召抱置、稽古之節々、九銭弐匁増賃銀被成下、御下村中壱日九銭十四匁増賃被成下候ニして、相望候者共左之通りニ候段、御作事方より相届ル

戌三月廿九日

先御駕籠　先御駕籠
吉左衛門　喜六
樋口内　伊兵衛
善兵衛　惣吉
先御草り取　先御鉄砲
善吉　又左衛門
先御杉山夫　原内
浅平　仙七
先御駕籠　小茂田内
辰兵衛　治兵衛
忠五郎　先御駕籠
卯作
傳吉
八右衛門

〆拾五人

吉川内記

〃吉川内記住居之門及大破居、御巡検使前取繕無之して難叶候処、自力ニて難手届、願ニより、上ヨリ御取繕被下、御入料銀六百参拾匁余之分、御作事方ニて相払、右銀諸方上納帳ニ相請込、当七月石麦より皆済取立候事

戌七月二日

平田宅磨

〃砥石渕平田宅磨前ヨリ七曲りえ之川渡り、御作事方ヨリ土橋を掛ケ候事、夫より七曲りは町より之普請場と相聞へ、右土橋ヨリ石渕道筋、御作事方差配ニて御郡夫を以道造りいたし候事

御郡夫弐百六拾人、壱日壱人銀弐匁弐分五厘ツヽニして召仕候事、御作事方へ払有之

田舎宿

田舎宿々普請

覚

御勘定手代

笹葉孫右衛門

御作事手代

阿比留郡治

大工

番手
左官

右御関所方御普請ヨリ上郷御宿々御普請方へ被差下置候処、十二月廿五日仁位村より上府、尤同所御宿六軒之内弐軒相済候得共、余は年内成就不相成候付中上府ニ成ル

御作事頭
古川武左衛門
御勘定手代
扇四郎治
御作事手代
扇廣作
大工
番手

大山村

右は大山村より御普請取掛下モ郷へ被差下

一、諸白七升

但、大山村御宿御普請被召仕置候大工・番手之儀、未明ヨリ掛深更ニ及候迄令出精、八百工ニ相及居候積ニ候を、人数拾参人ニして日数十三日程、御任銀差引ニして被成下可取計候事

御勘定手代御徒士目付兼帯
当時御作事方出張
扇四郎治
御作事手代
扇廣作
大工小頭壱人
大工九人
番手弐人

仁位村

右は、仁位村御普請手残之分、且御止宿村々侍中湯殿出来として正月十七日下村之事
御勘定手代
古谷新八郎
麸細工
熊蔵

右は、上ミ六郷御宿々御普請見分、且麸細工積立見分をも相兼、二月廿九日被差下、三月十四日上府
御勘定奉行
吉村儀右衛門

御郡奉行
高崎翼
御郡手代
中原卯左衛門
下村中御勘定手代兼
御作事手代
扇廣作
御勘定手代
清兵衛
御郡足軽壱人
大工小頭
惣八
大工四人

右は、上ミ六郷御宿々御普請向不宜候付、為見分被差下、尤格別手入ニ無之場所々々仕直之為大工召連、三月十八日下村、四月三日上府

表目付
谷織之輔

深山村

麸細工

御作事手代

森甚兵衛

大工小頭

惣八

大工九人

右は、佐護郷深山村、仁位郷仁位村、御本陣壱ヶ所宛是迄御普請取計有之家不宜候付、御宿々相成候家御取替ニ相成、其外六郷共御湯殿・御雪隠出来方不宜、其外所々仕直し、御普請所有之被差下

麸細工

山本勘治

同人次男

壱人

麸細工

熊蔵

同御雇

熊吉

夫之者壱人

御雇ニして日雇賃銀

九銭弐匁五分ツ、

右は、田舎御宿々床・襖・障子張替へとして被差下

麸細工御雇

青野孫右衛門

神主井田善次郎次男壱人

夫之者壱人

右は、麸細工仕事大振り御様子ニ付、右之通鶏知村麸細工之為、四月廿七日被差下

諸渡

覚

一、銀七百八匁四分壱厘六毛

佐賀村給人　白水孫兵衛宅

但、上使御宿御借上ニ付、御普請入料銀壱貫四百拾六匁八分参厘参毛之内、従上半銀御渡被下、余は自力ニて普請取計候様被仰付置候分

内、参百五拾四匁弐分八毛

佐賀村給人

自力

但、御作事方へ書出、此節半数御渡被下候事、酉十二月廿八日

火消番

此方役々詰所

奥里住居　中村太玄

右は、此方御役々詰所ニ御借上被仰付候事

同　堀屋庄兵衛

右、中村太玄門内手狭ニ有之、軽輩之者詰所建込不被申候間、太玄向家ニ相当候付、同人両店御借上方年行司え申遣候処、十二月十三日御借上御請ヶ申上候段申来ル

火消番

御紙面令拝見候、豊崎・三根両草使屋内火消番所え御借上之儀、事情致承知、三根郷草使え相達、御借上取計申候間、左様御承知被成度存候、此段為可申伸如是御座候、以上

四月廿一日　御勘定奉行所　御郡奉行所

〃火消番中ヨリ願ニヨリ、供夫六人総中へ御渡被下候事、委細被仰出之網ニ有之

〃右同断、出張中小使として、夫之者壱人ツヽ御渡被下候事

一、幕弐張　御有合少く候付、古幕壱張御貸渡相成候事

一、大丸挑灯弐張

一、手挑灯参張

龍吐水

賃銀・飯米

旅籠銀

駕籠夫

一、龍吐水三丁

右御備被置被下度奉伺之候、以上

閏四月七日　　火消番中

田嶋所左衛門様

賃銀・飯米

廻村中一日銀弐匁宛　　御駕籠組之者　壱人

旅籠銀

御合力壱ヶ月銀四匁

右田舎道作り成就之上、被差下候間、如斯相渡ス

壱日九銭弐匁ツヽ、　　御作事方抱

上使御着前稽古之日計　　御駕籠夫　拾五人

壱日九銭拾四匁ツヽ、壱日壱人前如此

下村中如斯

右之通相極置候処、此節御着御間近ニて、夜稽古為致候付、人馬方ヨリ伺ニより夜稽古いたし候節々、壱夜壱人九銭壱匁ツヽ相与候事

右、当時番手ニ召抱候上、如斯賃銀相渡

御郡ヨリ之御駕籠夫拾五人

壱日壱人前

壱人

銀弐匁弐分五厘

但、寛政年は六銭八分之賃銀ニ、夜ニ入候得は四分御増渡被下候儀ニ御座候処、町差引役より願ニ依り如此、上ヨリ六拾人分御渡被下、其余は町より相償候様被仰付被仰出之、細ニ有之

御巡検使ニ付、役々へ町ヨリ付人被成下、平町人雇賃銀、壱日壱人如斯

銀壱匁五分ツ、

府内売物方

府内売物方へ被相付候升取下代、平町人壱日壱人賃銀如斯

銀壱匁五分ツ、

田舎下り

田舎下り魚屋・八百屋、壱日壱人賃銀如斯

府内売物方へ被相付候魚屋・八百やえは、日々之賃銀不被成下、相済候後御見合、鳥目被成下候事

同壱匁五分ツ、
田舎下り売物役・茶屋亭主町六拾人、壱日壱人旅籠銀如是
同壱匁弐分ツ、
右同断、下旅籠如斯
〃府内売物役町六拾人賃銀不被下候事
追て真綿被成下、代銀ニて相渡

町料理人

銀弐匁ツ、　田舎下り町料理人、壱日壱人賃銀如是
同壱匁六分ツ、　同、配膳・板元之者、右同断、賃銀如斯
同弐匁ツ、　府内勤料理人右同断、賃銀如斯
但、平町人ヨリ御宿へ相勤候面々、諸品御宿々え取揃候日ヨリ勤掛り候ニ付、賃銀其積りを以、相渡候事

豆腐屋

銀壱匁六分ツ、　府内配膳下代之者、右同断、賃銀
同壱匁五分ツ、　豆腐屋弐人
同参拾匁、　弐人中
但、田舎付廻りニ付、諸道具自分より持下り候付、損料銀如是、尤村々ニて大豆売物方ニて相渡

うとん屋

同壱匁五分ツ、　うとん屋壱人、壱日賃銀、弟子壱人

御宿用薪

同参拾匁　　趣意右同断

飯米壱日壱人、白米四合五勺、味噌参拾匁、薪壱日拾五人前ニ五合ツヽ、〆之合也

府内御宿人足、郷夫御宿参軒、拾五人

壱疋

六銭参匁五分　　府内御宿用薪五拾疋、西平御立山ヨリ御伐らせ被成候賃銀如是

但、寛政年は壱疋参匁ツヽニて伐出候と相見申候得共、時体ニ連、右之代銀ニて難伐出、御郡奉行所ヨリ役談ニヨリ如此

〃燈草千四百束　代丁銭十五文

〃薪百五拾疋　　代銀七匁

右船々え売渡用、御郡奉行所ニて入札ニて相備候事

〃田舎売物役人へ下タ役無之、難儀之段町奉行所願出、追々御役談ニ相成候品も有之、手張候動向ニ付壱組ニ下タ役壱人宛御付ケ被下候と立テ（達てカ）壱日壱人九銭弐匁ツヽ、相渡候事

一、銀参百五拾九匁壱分

水茶屋々々亭主手伝下タ役壱人、雇賃壱日銀参匁四分弐厘、人数七人分、日数拾五日分、貸渡候ニして

内、百弐拾弐匁八分五厘

飯米代銀壱匁壱分七厘、七人分、日数拾五日分、上ヨリ御渡被下候事

残銀弐百参拾六匁弐分五厘
賃銀壱人弐匁弐分五厘、七人分、日数拾五日ニして、町用銀ヨリ御貸渡し被下候事
外ニ
銀参拾五匁参分四厘
七曲り水茶屋亭主売用餅入料壱度、銀拾七匁六分七厘両度之分如斯、上ヨリ被成下候事
右之通御渡被下、委細被仰出之細ニ有之
一、田舎売物役、依願下代壱人被被仰付候賃銀、壱日壱人銀参匁ニして上ヨリ御渡被下、自分雇ニて相済候事、尤此下代は先々ヨリ被仰付来候得共、此節は下代人少差支候付、此御役所評議を以、右之通取計候事

田舎御付廻

田舎御付廻役々御渡物

〃銀拾枚被成下　杉村右馬助
〃滞米、白米拾五表　上下拾参人
外ニ付人
〃上壱人、銀壱匁五分　足軽弐人
旅籠銀相渡ス　下目付壱人
〃組之者并下人は、壱日壱人ニ付飯料として　牽馬

飯米・味噌

白米七合五勺、味噌参拾匁ツヽ、田舎売物方
ヨリ其所々ニて相渡、

駕籠舁夫六人
沓箱持壱人
茶・弁当持壱人
合羽籠持壱人
荷馬五疋

〃外ニ、七人御手人被召連候飯米・味噌等、売物方ヨリ相渡置、追て御上納ニ相成候事

滞米

〃滞米八表

御郡奉行
高崎翼
上下四人
乗馬壱疋
荷馬壱疋
外ニ付人　郡ヨリ弐人

上旅籠　右同断　下付飯

御用達
乾一郎兵衛
上下七人
外ニ付人・足軽弐人

〃滞米白米六表

上旅籠　右同断
下付飯

人馬下知役

付人・足軽滞米五分方
付飯被成下

〃滞米白米六表
上旅籠　右同断
下付飯

〃滞米弐俵　壱日御先キ出立
上旅籠　右同断
下付飯

乗馬壱疋
荷馬弐疋
合羽籠持壱人　但し御郡ヨリ

人馬下知役

早田安賀之助
上下四人
乗馬壱疋
荷馬壱疋
外ニ付人壱人　郡ヨリ

御郡佐役

龍田卯兵衛
上下参人
乗馬壱疋
荷馬壱疋

郡手代

〃滞米壱表八升参合参勺参才

上旅籠　右同断

下付飯

日帳付

〃滞米　右同断

上旅籠　右同断

下付飯

医師

〃滞米白米参俵

御郡手代

三井田槙右衛門

上下弐人振余り

荷馬壱疋

日帳付

大嶋廣吉

上原隆右衛門

弐人中下壱人

乗馬壱疋ツ、

荷馬壱疋ツ、

外ニ小使壱人

府内ヨリ役方荷物持夫郡ヨリ弐人

医師

吉弘令庵

外科

上旅籠　上下四人
下付飯　外ニ薬箱持郡夫壱人
銀三枚被成下　駕籠舁夫四人
薬種調用　荷馬壱疋
合羽籠持壱人
但し、正斎両人中

外科

〃滞米参俵　妻瀬正斎
上旅籠　上下参人
下付飯　其外右同断
銀弐枚　薬種調用
銀参拾六匁　蜜蝋代

〃滞米弐俵　御宿拵立廻り見分、御茶屋拵御宿札打
上下共飯米　古川武左衛門
上下弐人

手代役

〃滞米壱俵八升参合三勺三才
上旅籠
下付飯

乗馬壱疋
荷馬壱疋

右手代役御付廻り
三木田経右衛門
上下弐人振余り
乗馬壱疋
荷馬壱疋
大工小頭壱人
大工壱人

人馬下知役

〃滞米壱俵八升参合三勺三才
上旅籠
下付飯

人馬下知役手代
中村久七
白水藤右衛門
信田武右衛門
梅野廣右衛門
米田惣之介

馬指

勘定手代

弐人中下壱人ツ、
乗馬壱疋
荷馬壱疋

馬指
足軽六人
六人中荷馬壱疋

御荷物宰領
足軽六人
六人中荷馬壱疋

〃滞米五歩方
〃付飯右同断
〃馬指御荷物宰領
御かご（駕籠）廻し小頭之
組中へは其段壱人米壱斗
壱升壱合壱勺壱才ツ、他之
勤と違苦労強候故、右之者共ニ限り被成下

御勘定手代
内山繁左衛門
上下弐人振余り
乗馬壱疋

〃滞米壱俵八升参合参勺参才
上旅籠
下付飯

荷馬壱疋

御勘定所下代壱人

〃滞米五部方（ママ）

付飯

賄掛

御賄掛

川本茂十郎

井常右衛門

原田宇右衛門

大宮吉左衛門

波多野新左衛門

田口甚七郎

〃滞米壱俵八升参合三勺三才

上旅籠

下付飯

弐人中下壱人

乗馬壱疋ツヽ

弐人中荷馬壱疋ツヽ

御宿飾

御宿飾道具役諸色為繰替之為メ被相付

〃滞米五歩方　　下代七人
付飯　　人足壱人
荷馬壱疋
下代七人之内、壱人下モ男召仕、御椀箪笥宰領申付ル
売物方下代弐人
夫之者弐人
此節無之

縄船
〃滞米壱俵八升参合三勺三才　　縄船奉行船住居
上旅籠　　高山野
下付飯　　青木藤右衛門
弐人中下壱人

地引網船
地引網船壱艘
曲浦海士船壱艘
縄船壱艘
馬医　志田左右作

馬口付

旅籠下知役

上下弐人振余りり
乗馬壱疋
荷馬弐疋
厩之者八人
荷物付合
御牽馬口付
御厩之者八人
内弐人は小頭、飼口兼帯
右同断
夫之者五人
荷馬壱疋
旅籠下知役
佐々木大右衛門
俵幾左衛門
扇五兵衛
桟原惣右衛門

此節御牽馬無之、不被差下
右同断
右同断
〃滞米壱俵八升参合参勺参才
旅籠付飯前ニ同し

箕原喜七郎
弐人中下壱人ツ、
乗馬壱牽ツ、
弐人中荷馬壱疋ツ、

沓箱持
郡夫四人
中馬口付
郡夫
荷馬

御駕籠舁小頭
御駕籠組参人
御駕籠舁
夫之者拾五人
御作事方召抱之者
荷馬

沓箱持
中馬口付
荷馬

〃滞米五歩方
付飯

〃賃銀・飯米之細ニ有之

郡手代

〃滞米
旅籠付飯右同断

御郡手代
中原卯左衛門
阿比留伊右衛門
小宮弥内
弐人中下壱人
乗馬壱疋ツヽ
荷馬弐人中壱疋之積

山駕籠付
郡夫
出駕篭
郡夫

郡足軽

〃滞米五歩方
付飯

御郡足軽参人
同使番弐人
荷馬壱疋

御茶道

夜具差配人

〃滞米壱俵八升参合参勺三才
上旅籠下付飯、右同断

〃滞米右同断
上旅籠下付飯右同断

御茶道
築城春意
上下弐人
乗馬壱疋
荷馬壱疋
乗馬壱疋
荷馬壱疋
両掛持夫二人
内壱人　御作事方ヨリ
内壱人　御郡夫飯米も御郡ヨリ相渡

夜具差配人
和瀧藤左衛門
上下弐人
乗馬壱疋
荷馬壱疋
組之者参人

御引廻持夫

御作事方通夫六人
人馬方役中
六人中差人弐人

御関所

御関所加番　御横目頭
濱崎治兵衛
上下四人

〃滞米白米四俵

御関所加番　大小姓横目
小茂田匠
上下参人

〃滞米弐俵

右御関所加番之人、御関所勤中往還共、田舎下り之格、飯米黒米五合ツ、御切手ニて相渡、御扶持は無之、御合力銀、老頭銀拾五匁、大小姓・御横目銀拾弐匁ツ、

鰐浦在番

鰐浦在番所勤　奥御目付
田中庄右衛門
上下参人

〃滞米弐俵
上下共飯米

御船頭

年行司

町奉行所書手

〃滞米五歩方　　同人え被相付候

飯米　　下目付壱人

〃滞米　　仁位渡小隼御船頭

上旅籠　　吉田又市

下付飯　　梅野茂左衛門

山口文左衛門

〃米壱俵半宛　　年行司

前川松兵衛

遠藤忠蔵

〃米壱俵宛　　町奉行所書手

町肝煎

右之通御渡被下、書手は別て骨折せしめ候付、別段米半俵御渡被下

御徒士目付

〃久田村仮番所詰之面々御渡物は、久田村之細ニ有之

御徒士目付
内野半右衛門
上下弐人
乗馬壱疋
荷馬壱疋

下目付

〃滞米壱俵八升参合参勺参才
上旅籠
下付飯

下目付弐人
荷馬壱疋
弐人中

〃滞米五歩方
付飯

壱州御迎

壱州御迎之事

御巡検使、四月初旬御発駕之積御左右相達候ニ付、御向イ御役々以下被差越、御仕出被成候御充行左之通

御用達　勝本迄御迎
乾一郎兵衛

〃銀弐枚　仕出銀

〃同拾匁　若堂壱人　毎月御合力　上下七人
〃同拾四匁　仲間弐人
壱人七匁ツ、　毎月御合力
〃旅籠　上壱日丁銭弐百文
下同　同百五拾文
但、先格、上、銀壱匁五分、下、同壱匁弐分、旅籠被成下候得共、以前と違諸方旅籠銀
相増居候付、如斯
〃銀五百匁　一行用心銀ニ等貸ニして
〃季拝借　一季分
〃滞白米八俵
〃往還船中飯米

乾一郎兵衛付人
〃銀拾匁　壱人五匁ツ、　御鉄砲
御合力一ヶ月分　吉右衛門
〃滞米隣国御定法之通　伴次郎
〃御救米壱人五斗ツ、

〃往還船中飯米御定法之通

〃旅籠銭　　丁銭百五拾文宛

但、組中御合力銀は、以前参匁ニ候処、文政二年ヨリ五匁ニ御増被下候事

一郎兵衛付書手

楠本廣治

〃銀拾参匁参分参厘

壱ヶ月御合力

〃旅籠丁銭百五拾文ツ、　但一郎兵衛ヨリ願ニヨリ被相付

右小隼虎行丸ヨリ

御船頭

吉田又市

梅野茂左衛門

上下参人

〃銀弐拾匁ツ、　取切御合力

〃同拾匁ツ、

若堂毎月御合力

〃同七匁ツ、

仲間毎月、右同断

〃旅籠　上丁銭弐百文　下同百五拾文

御船頭

〃滞米季拝借隣国並
〃往還船中飯米御定法之通
右小隼琴崎丸ヨリ

御迎之節
一、小隼頭漕弐艘
五人乗ニして賃銀之儀、往還両日は壱人九銭弐匁ツヽ、壱州滞留中は、壱人壱匁五分宛、
飯米白米九合ツヽ追通しニして、上より被成下候事

御着船

御着船

閏四月廿一日
一、上使今日御入船ニ付、申之刻過丸山ヨリ貝吹候ニ付、御支配并諸役小役人は、中村太玄宅
え罷出、尤子之刻比ヨリ追々御浦入り御一行ツヽ、三度ニ御揚陸、卯之刻前不残御揚陸ニ相成、
依之翌廿二日御支配を初御引取無之、直ニ相詰候事

同廿二日
一、若殿様御出被遊候付、御行列付は御作事方へ相渡、同所記録ニ為記置候事、右之格ニ候処、

若殿様

御入船

御病気ニて御出御延引被仰出候付、兼て被仰付置候通、与頭ヨリ多田采男御使者相勤

御入船之節

一、本漕船六隻　八人乗ニして
乗組人数四拾八人
内六人御船手より
残四拾弐人
内参人賃銀、町より取立候事、御待請之間壱日九銭壱匁ツヽ、当日九銭弐匁町より取立ニ相成候事、外ニ飯米八合ツヽ、御待請より追通、上ヨリ被成下
右、曲り海人を以被召仕候事

一、枝漕船弐拾四艘
此分は、町ヨリ出候先格ニ付、此方ニ不相拘儀なから、人夫・船共雇出し不相届候付、曲り海士之者共本漕船之通之賃銀・飯米ニて相雇、町より賃銀・飯米共町ヨリ（ママ）差出候事、尤御船奉行所ニて取立

〃大目付吉田大蔵上下拾壱人、騎馬ニて御着船之節御締り之為浜え罷出ル、御発船共右同断

〃御乗物参挺御用意ニ相成居候分、御用ヒ被成、御三方様共御歩行ニて御船揚有之

〃御牽馬参疋為御待請御着船之日、恵比須崎へ御備相立候御先格ニ付、御用意ニ相成候得共、

御用意御無用ニ相成候様、勝本ニて御用達乾一郎兵衛え御釣合有之段、同人ヨリ申越候付、
御用意方御止ニ相成候事
〈朱書き〉「一、御椀器御用意被置候処、御持越ニて相済、弁当割子御持越之事　一、臺子・
衣桁・浴衣御用意、御飾付之分引候様差図ニ相成候事」

田舎御発駕

田舎御発駕

〃閏四月廿三日辰之刻、府内御出立御治定相成候段被成御達

閏四月廿三日　　雨天

〃役々卯之中刻ヨリ中村太玄宅へ役々罷出ル

〃今辰之上刻府内御発駕被成候付、御付廻り役共ニ出立有之

〃御牽馬参疋御銘々為御牽被成候儀ニ候処、当節は御達之品ニヨリ其儀無之
但、此節は被相止候段、壱州御用達ヨリ申来候付、兼て御達ニ相成居候事

〃御道中御付廻りニして引廻御雪隠、御三方様方参通用意、持夫御作事方ヨリ差出

閏四月廿五日

一、安駄駕籠代（かわり）　権門駕籠壱挺

一、草鞋参百足

一、紙合羽九拾七
一、荷桐油参拾枚
一、弐拾匁掛蝋燭拾斤
一、小田原挑灯拾参張
一、鎮（改）鍮火箸参膳
一、鉄同六膳
一、塩鰤五喉
一、塩鴨拾羽
一、木綿壱疋
一、桐油苫拾枚　但、壱間物ニして

右壱州鯨船壱艘積入差下ス、右之外御賄方ヨリ米・味噌其外諸色送り越候分、御賄方取紛書載可致置事

壱州鯨船

〃山御駕籠三挺御用意之分御借用可被成と之御事ニ付、則御備ニ相成居山駕籠之儀、此節は大坂職方ニて不出来合及断候付、権門駕籠参挺下り来居候を御借渡ニ相成候付、御控駕籠無之して不相済候付、古川采女持合駕籠借上、人馬方渡ニして差下置ク

山駕籠

右之通、御借用之御駕籠ニて御下村ニ相成候事、佐賀村御発駕之日、柳ヵ原と申茶屋近所ニて棒損し、為取替為差登来候付、代り駕籠は小川丹下殿駕籠借上ニして、御郡奉行所へ相渡、

明廿八日迄ニ深山村へ当被差下置候事

〃同廿四日、大山村ニて壱日御滞駅ニ相成り、同廿五日同所御発駕、佐賀村へ御通駕之段申来、然所御供部屋用薄縁四枚、莚拾四枚紛失ニ至、然所大山村之手を以仁位村へ被差廻之積合ニ候処、右品々不足ニ相成候上、外ニ莚拾枚人馬方荷拵用取遣ニ相成候付、薄縁四枚・莚弐拾四枚差下方申来候ニ付、廿七日御賄方ヨリ荷拵いたし、折柄御郡え差下便船有之段申来居、早速用意差下置候事

御上府

田舎ヨリ御上府

御往還御定日八日ニ候得共、此節は大山村ニて御滞駅ニ相成候付、日数九日ニ相成候事

閏四月廿三日　府内御発駕　大山村御着
同廿四日　大山村ニて御滞駅
同廿五日　佐賀村御泊
同廿六日　琴村御泊
同廿七日　豊村御泊
同廿八日　深山村御泊
同廿九日　瀬田村御泊
五月朔日　仁位村御泊

曽我又左衛門

近藤勘七郎

同二日　　御上府

〃田舎御巡検無滞相済、今二日未之刻比御上府有之候事

〃曽我又左衛門様給人衆、内分駕籠ニて下村ニ相成居候処、大山村ニて旅宿構近所ニて転ひ、大イニ損し、難相用候付、用心出駕こ差出、損駕籠為修補為差登来候付、三木屋弥吉え申付、修補取計、御上府之前日、御本陣え遣し置候事

〃近藤勘七郎様御駕籠之儀は、此方様御用意ニ相成居候を、御借用被成度由ニ付、御借渡ニ相成居、山御駕籠棒木性不足候て、棒折レ御乗難被成、控之御駕籠ニ御乗被成、損し駕籠は直ニ持上、御替駕籠壱挺早々深山村へ差下置候様申来候付、小川丹下殿駕籠を借上ケ、御郡奉行所渡ニして、同所差配ニて深山村即日被差下候事

〃御上府夜ニ入候得は、研石渕平田宅磨住居脇手七曲りニ掛、道口川え土橋掛候、橋際ニ手甫籌弐丁、夫ヨリ御屋敷下迄台挑灯拾壱張、夫ヨリ下モ小路口々之何レも御旅宿迄之間、台挑灯五拾張、都合台挑灯六拾壱張燈之候、御手当相立居候得共、此節は夜ニ入不申御上府之事故、御用意而已ニて相済候事、右挑灯配りは、御作事方記録ニ有之、右御通行筋御家中・市中共、門口ニ挑灯燈候、兼て御触達ニ相成居候処、是又其儀ニ不及相済候事

〃上使御通駕之節、一之御門大扉御〆ニ相成候事

〃同御滞留中御物見簾外シ、雨戸御〆被置候事

〃馬場筋通物見同断之事、兼て御触達之事

〃御通筋門々、大門不開小ぐり計り明ケ置候也、同断町家は店・戸共明ケ置、家内土路え畏り居候事

〃大手下タ堅メ、御発駕之節之通り也

但し、先格は御下り之節と御上府之節と、堅之面々別段ニ被仰付候得共、此度は両度共同人ニて相済、寛政年も同人ニて相済居候付、其例ニて右之通被仰付候事

〃大手下え、古川将監殿騎馬ニて御出迎有之

五月三日

此節は御順風ニ候得は、直ニ御出帆可被成段被仰出置候得共、南風気ニ付、御順風之節御乗出上船ニ被成と之御事、今日御乗船無之

〃近藤勘七郎様ヨリ香丹子御調可被成と之御事ニ付、弐ツ御用達遣し候分ニして被進方御用達ニ御差含被差越候得共、御請不被成、代銀御聞被成、弐ツニて九銭拾弐匁之段、御宿亭主を以申上ニ相成御調被成候事

香丹子

五月四日　南東風

〃御不順ニ付、御乗組不被成候事

御出帆

同五日

〃今日端午ニ付、延享年之形を以真菰粽御宿亭主差上分ニして、左之通り御賄方用意ニ相成ル

一、真菰粽百五拾ウ、にう不入ニして仕立相成候事

但、上使御三方様へ御一方五拾ウツ、、外侍分以下一方ニ弐百宛笹粽真粉ニして、にう不入ニして、御宿亭主此分ニして、此分は御賄方用意之筈ニ候へ共、多数ニて出来難く、餅屋ニて出来ニ相成、四日夕迄出来、何れも売物方渡ニして、同所より御宿亭主へ相渡候事先格也

〈朱書き〉「御三方様分御賄方仕立ニして」

〃今朝御順御届ニ相成候処、次第ニ南風気ニ相成候得共、一旦御順届ニ相成、此方様御役々ニも浜出張ニ相成居候段御見請被成、御乗組可被成と之儀、曽我又左衛門様御聞定、己之中刻過キ、直ニ御乗組ニ相成、大久保勘三郎様・近藤勘七郎様ニは、昼御膳御仕舞被成候て未之刻比御乗船ニ相成候事

〃此方御役々ニは、去ル二日御上府之日より日々中村太玄宅え相詰

御出帆

五月六日

〃今日御順風ニ付、卯上刻御出帆有之、勝本迄御見送として、御用達幾度小四郎弐拾六丁立琴

崎丸ヨリ御船頭吉田又市郎・梅野茂左衛門儀は、先導船脚行丸弐拾弐丁立ヨリ
〃先格之通勝本迄、頭漕六隻・漕船弐拾四艘被差越、尤頭漕伝道ニは漕船奉行として、御徒士
中ヨリ壱隻ニ壱人宛乗組被召仕
〃頭漕六隻　　但し、御船奉行所用意伝道也
〃漕船弐拾四艘
内拾弐艘は曲り海人、壱隻五人乗組ニて被召仕
但、壱隻ニ付九銭六匁渡切、賃銀壱人前九銭拾五匁渡切、飯米は不被下段ト定ニ候得
共、追て難渋之段願出候付、去三日回府日ヨリ御出帆之日迄、壱人白米八合ツヽ被成
下候事
同拾弐艘
此分亀屋卯右衛門心配を以、同人鯨船之内より雇入置候処、此節上使ニ付、壱州者義
出国被差留候付、壱州ニて別段ニ人数百四拾四人卯右衛門ヨリ申付置候訳ヨリ、壱州
町人土肥国三郎と申人世話ニて雇入差越、壱日壱人丁銭百門、船壱隻ニ付薪代として
廿五文ツヽ被下候事、尤右漕船乗組ハ元来六人乗之約定ニ候得共、此節は右之通初発
約定之乗組間違雇替ニ相成候処、御出帆ニ臨、六人乗ニて難漕渡、第一病人等有之、
今拾弐人御増不被下候ては、頭漕え乗分難相成段申出候得共、御出帆ニ差臨居儀ニ雇
入難相成候付、丁銭弐百文別段被成下ニして、夫ニて相償、頭漕ニも乗分方令諭達相

勝本御見送

済候事

〈頭注〉「但、初発卯右衛門ヨリ申組候賃銀ハ、壱日壱人丁銭八拾五文、荒米九合壱勺、船壱隻ニ付薪代として拾七文之申組ニ候得共、間違ニ至り候付、本文之通りニ相成候事」

勝本御見送御用達

一、銀弐枚　仕出銀　幾度小四郎

一、同拾匁　若堂（党）　壱人毎月御合力　上下七人

一、同七匁　仲間弐人

一、勝本逗留中、上壱人旅籠銀壱日丁銭弐百文、下壱人同百五拾文ツヽ、

一、白米七俵壱升六合四才

但、季拝借

一、同八俵　定式滞米之分

一、同参俵　滞米ヨリ別段御渡被下

一、往還船中飯米御定之通

幾度小四郎付人

一、銀五匁ツヽ、　足軽文吉

善兵衛

一、勝本逗留中旅籠丁銭百五拾文ツ、
一、五斗米相渡候事
一、同人書手壱人御充行迎之通也

御船頭

吉田又市
梅野茂左衛門

一、銀弐拾匁宛
　御合力銀取切ニして
一、同拾匁宛　若堂(宛)毎月御合力
一、同七匁宛　仲間毎月御合力
一、滞米季拝借、御往還共同人被召仕候付不相渡事

勝本迄漕船下知役

古藤杢右衛門
鈴木元右衛門
梯茂左衛門
丈束善右衛門

一、銀弐拾匁宛
　御合力取切
一、同七匁
　下壱人毎月御合力

一、季拝借　半ヶ月分宛　佐伯勝五郎
一、滞米隣国立帰り御定法通り　仁位右兵衛
一、往還船中飯米　逗留中　弐人中下壱人
旅籠上壱人丁銭弐百文、下壱人百五拾文ツ、
〃御巡検使御上船之節、御上り箱階子参挺、外矢来南・東・北手共三方ニ掛置候事、御入船之節も同断
但、此節は御入船・御上船之節共、御一方様宛追々御揚り被成候事
〃御荷物之儀は、御上船前日、四日ニ積ミ入相成、人夫・人馬方ニ罷有候御駕籠夫、船奉行所ヨリ水夫差越、積入相成候事
〃御上船之節、御供夫参拾六人之内、拾人御船奉行所、参人御本宿、御用達渡郷夫拾五人之内より御本陣壱処より壱人ツ、差出、残拾五人御郡夫八人、御作事方より差出相済候事
但、寛政年町より差出有之候付、此節差出方申遣し候得共、当時市中ニて雇入不成、此節御断ニ相成候付、右之通出夫方も及役談、相済候事
〃御郡奉行所ヨリ出之拾五人は、壱人賃銀壱匁、白米四合五勺ツ、被成下之儀、御役談之上相極、御作事方拂ニして相渡候事
〈朱書き〉「御出帆之日為御祝詞諸役中肩衣着、并御用掛り之小役人其外上使御用ニ関り候面々、肩衣着出仕、御面謁在之、尤以前御支配諸役中御祝被成下候得とも、寛政

道作之事

年ヨリ相止、此節諸役中へ御口祝被下候事」

府内田舎道作之事

一、研石渕平田宅磨住居脇之川中ニ、石ニて中ニ築立杉丸太四本渡、横に柴元を縄蔓ニて結付、上二土を置キ橋を掛ケ候事、御作事方ヨリ出来、同所より青木牧之允住居下手土橋迄致道作候事、是又御作事方ヨリ人夫を出候仕来ニ候得共、此節御手入寡く候ニ付、郷夫弐百参拾人御郡え御差図ニ相成り、壱人丁銭百参拾四文宛日雇、統領拾弐人壱人百七拾九文ツヽ、並日用四拾五人、壱人百参拾四文ツヽニて、道作り橋掛共ニ成就ニ相成ル

一、右同所古川将監殿掛屋鋪外れより七曲り迄は、町より道作致候事

但、銀山御巡検有之候得は、佐頭坂も同断仕来候得共、此節ハ銀山御巡検無之候付、道作りニ不及候事

〈朱書き〉「〃久田道打上坂道遠之儀は、番十三郎是迄通行之道筋を自分之屋敷ニ取入、古道を通行ニ願立候節、道辺之掃除自力を以て可致段申出居候、品ニヨリ同人ヨリ取繕候筈ニて、此節上之御普請ニ不相成候事」

（終）